私大図協・東・研・2023-5 2023 年 4 月 7 日

私立大学図書館協会 東 地 区 部 会 加盟大学図書館 御中

> 私 立 大 学 図 書 館 協 会 東地区部会研究部担当理事校 専修大学図書館 館長 廣瀬 玲子 [公印省略]

#### 2023年度東地区部会研修会のご案内(通知)

拝啓時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く 御礼申し上げます。

昨年度から始まりました、新たな研修制度について、今年度はスキルアップ研修に3つの コースを追加して、全8コースで実施することとなりましたので、下記の通りご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては私立大学図書館協会東地区部会のホームページ (https://www.jaspul.org/east/news/2023/) に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

- 1. 開講期間 2023年4月から12月の期間
- 2. 募集人数 各コース 25 名
- 3. 受講条件 (1) 私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する者
  - (2) 所属機関長の承認を受けていること
- 4. 申込方法 参加申込フォームよりお申し込みください https://forms.gle/zqGaniwFRpbnjCkC6
- 5. 締め切り 2023年4月21日(金)
- 6. 問合せ先 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

専修大学図書館(担当:飯泉、野村)

Tel 03-3265-8339

E-mail eastlib@acc. senshu-u. ac. jp

## 2023年度 私立大学図書館協会東地区部会 研修会実施要項

#### 1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入等により、図書館業務に携わる人員の流動性が非常に高まり、変化の著しい業務知識や経験・ノウハウ等の継承が困難な状況に直面しております。これまで、私立大学図書館協会東地区部会では、研究分科会や研修分科会といった単年度から複数年に渡る研修体制を用意し、サポートしてきましたが、研究分科会活動の低迷といった状態が続いておりました。このような状況を踏まえ、昨年度より私立大学図書館協会東地区部会では、各図書館の抱えているこれらの課題を軽減すべく、これまで実施してきた研究分科会と研修分科会の体制に代わる新たな研修体制を準備し、各大学図書館での学習支援体制向上のサポートを開始しました。

#### 2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

#### 3. 実施、運営

特定非営利活動法人 大学図書館支援機構(IAAL)

#### 4. 受講コース (詳細の内容については各案内をご参照ください)

#### (1) 初任者研修

主に図書館勤務初年次職員を中心に大学図書館における様々な業務や問題のについて知る場として、また、初任者同士の横のつながりを創出する場としていきます。

#### (2) PB (Problem Based) 研修

初任者研修に続く研修として、参加者が持っている業務に関する問題・課題意識を参加者同士で共有し、コーディネーターやファシリテーターと共に解決方法から学び、習得し、実践を通して解決・改善する場としていきます。

#### (3) スキルアップ研修

初任者研修に続く研修として、図書館業務個別の問題・課題に対し、発展的に 学び知見とノウハウを深めていきます。更に、主体的に解決していくと共に効 果的に成果を公開していくための能力を身につける場としていきます。

#### 5. 受講方法

オンラインでの研修がほとんどですが、一部のコースは対面で実施します。詳細は各 案内をご参照ください。

#### 6. 受講期間

2023年5月~12月の期間

※スキルアップ研修は講師と参加者間の調整により期間や実施の回数等は変更します。 ※12月に研修報告大会を実施します。

#### 7. 募集定員

1期 各コース25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

#### 8. 受講対象者

私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する方を対象とします。 ※専任・非専任は問いません。ただし、所属機関長の承認・了解が必要です。

#### 9. 受講料

5,000 円

※私立大学図書館協会東地区部会研究部に銀行振込

#### 10. 申込方法

受講希望者は別途お知らせ予定の URL にアクセスし、お申し込みください。 ※お申し込みの際は、所属機関長の承認・了解を得てください。 申込期限 2023年4月21日(金)

#### 11. 受講者の決定

受講者の決定については5月中旬に各所属機関長と受講者に通知します。

#### 12. 問合せ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

専修大学図書館(担当:飯泉、野村)

Tel 03-3265-8339

E-mail eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

#### 13. 注意事項

- (1) 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
- (2) 研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成 する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承 ください。
- (3) ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。(但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。)

以上

## 私立大学図書館協会東地区部会



【 2023年度 /

開催は年4~6回 1回2~4時間

初任者・PB・スキルアップ



# 77 修

# 参加者募集

8つの研修から、 深めたい分野を選べる



基礎習得&仲間作り!

初任者

電子リソースの基礎!

電子資料

課題解決型学修!

PB

世界標準を知ろう!

RDA/3R

書誌学的知識を得る!

和漢古典籍

医学系情報リテラシー

へルス サイエンス 実践に繋げる!

学生協働

NCR2018が分かる!

NCR

参加希望者はQRコードまたは以下のURLよりお申込みください。



## 申込期限:2023年4月21日(金)

https://forms.gle/zqGaniwFRpbnjCkC6

お問い合わせ先:私立大学図書館協会東地区部会

研究部担当理事校 専修大学

Email: eastlib@acc.senshu-u.ac.jp

12月に研修報告大会を開催!

## 2023 年度初任者研修コース案内

#### 1. 概要

. 17.02 1	
研修コース名	初任者研修
期間	全4回。以下を予定しています。
	【第1回】6月、【第2回】8月、【第3回】10月、【第4回】11月
曜日・時間	主に金曜日・13 時~17 時(途中休憩約 10 分を挟む)
担当者	高野 真理子(大学図書館支援機構)

#### 2. 詳細

<b>乙. 計</b> 和山	
到達目標	この研修では、専任の大学図書館職員に求められるマネージメント力と、知識
	を自ら探求し、現状を多角的に分析、評価して業務を遂行する能力を身につけ
	ることを目標とします。
各回内容	他大学の図書館員とも交流する中で図書館のパフォーマンス向上に必要な幅広
	い視野を養い、大学図書館の現状についての理解を深めます。また,図書館の
	DX に必要なスキルの習得を目的とした実習を行います。
	具体的には電子資料(電子ジャーナルや E-Book)、学修支援、研究支援、レフ
	ァレンス、データライブラリアン、委託外注、企画広報、等々さまざまなテー
	マで、専門家の講演を聞き、事前課題とグループ討議や実習から実践的な能力
	を養います。
	【第1回】情報リテラシーを支える図書館員のレファレンス力
	【第2回】バーチャルライブラリーツアー動画試写会(または見学ツアー)
	【第3回】電子リソースの達人を目指して
	【第4回】学生協働を活かすには
	*夏季見学ツアーの実施は参加者とご相談して決めます。
事前課題	あり
実施形態	Zoom オンライン形式・集合形式
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇あり)

資格・経験等	大学図書館業務初任者
環境等	受講の際にはインターネットに接続できる環境とブラウザー(Zoom,
	OneDrive 等を使用します)

## 2023 年度 PB 研修コース案内

#### 1. 概要

研修コース名	PB (Problem Based) 研修
期間(回数)	全6回。以下を予定しています。
	【第1回】6月、【第2回】7月、【第3回】8月、【第4回】9月、【第5回】10月、
	【第6回】12月
曜日・時間	オンライン形式・金曜午後 1:30-4:30(途中休憩約 10 分を挟む)
担当者	高野 真理子(大学図書館支援機構)

#### 2. 詳細

2. 詳細	
到達目標	各大学図書館で抱える問題や、より良いサービスに向けた課題を参加者(受講者)間
	で共有し、参考になる知見を集め、解決に向けたアイデアを出し合う機会を提供する
	課題解決型(Problem Based)の研修です。課題は参加者自身の問題意識や関心に合
	わせて設定します。パブリックサービス、テクニカルサービスどちらの課題でも構い
	ません。例えば、図書館が行うイベントについて、電子資料(収集・整理・利用)に
	ついて,オンラインレファレンスについて,機関リポジトリについて,著作権や ILL
	について,2022 総合的発見環境について…等々です。アドバイザーが課題解決の技
	術的支援と,効果的な成果発表方法をレクチャーします。
	業務において、発展的な問題意識を持ち、他の大学図書館とのコミュニケーションを
	通して、自己解決力をつけることを目標とします。また、その成果を実務に活かし、
	大学図書館サービスの向上に寄与することを目的とします。
各回内容	参加者の課題意識・関心に応じて PBL (Problem Based Learning)のテーマを設定し、
	進捗に応じた各段階で、全体での発表と討議・情報交換を行い、研究を進めます。
	第1回 研修ガイダンス,課題・グループ設定,研究方針計画
	第 2 回 課題検討,進捗発表
	第 3 回 課題検討,最終発表会
	第4回 後期課題・グループ設定,研究方針計画
	第 5 回 課題検討,進捗発表
	第6回 課題検討,最終発表会
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)
	10 10

- 1 >4H 1> 4	
資格・経験等	図書館サービスに前向きな課題意識を持っている方なら、資格を問いません。管理職、
	中堅職員、図書館業務経験の浅い方も、一緒に課題に取組んでいきましょう。
環境等	受講の際にはインターネットに接続できる環境とブラウザー(Zoom, OneDrive 等
	を使用します)

## 2023年度スキルアップ研修(和漢古典籍)コース案内

#### 1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修(和漢古典籍)
期間(回数)	全8回 【第1回】5月末、【第2回】6月、【第3回】7月、【第4回】8月、
	【第5回】9月、【第6回】10月、【第7回】11月、【第8回】12月
曜日・時間	対面式 13:15 から 2 時間超(第 2 回目以降の曜日・開催日は第 1 回時に相談)
担当者	小此木 敏明(立正大学古書資料館専門員・大学図書館支援機構)

#### 2. 詳細

<b>∠. 計</b> 和□	
到達目標	日本や中国で刊行された古典籍資料を所蔵している大学図書館は多いと思います。
	図書館員として、それらの資料に関わる機会も出てくるでしょう。しかし、古典籍資
	料の扱いには専門知識が必要となります。特に、書誌学的知識なくしては、その書誌
	を作成することはできません。たとえば、書名をどこから取るか、刊記の情報を出版
	年として採用してよいか、刊記がない場合の出版年をどのように推定するか、印記の
	読解方法など、個人で学習するには難しい問題が数多くあります。
	本講習では、書誌学的知識を学ぶことで、古典籍資料の扱い方や書誌作成の能力を身
	につけることを目標とします。
各回内容	古典籍資料の扱い方や調書の取り方を学んだ後、調書を作成する実習を行います。
	その後、作成された調書の検討をしていきます。
	第1回 工具書などの案内、基礎知識の解説
	第2回 調書の取り方について、調書作成の実習
	第3回 作成された調書の検討、調書作成の実習。
	: (以下、第2回以降の繰り返し)
実施形態	対面式
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)

資格・経験等	和漢古典籍に関心がある人。資格・経験は問いません。
環境等	会場(立正大学古書資料館)にて行います。

## 2023 年度スキルアップ研修 (RDA 3R) コース案内

#### 1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修(RDA 3R)
期間(回数)	全4回。以下を予定しています。
	【第1回】5月、【第2回】7月、【第3回】9月、【第4回】11月
曜日・時間	オンデマンド・オンライン(金曜 13 時 30 分~14 時 30 分)のブレンド型
担当者	高野 真理子 (大学図書館支援機構)

#### 2. 詳細

4. 許和	
到達目標	インターネットの普及で情報検索が日常化している中で、図書館情報サービスの根
	幹は、組織化されたメタデータを使いこなす専門的な技術によって裏付けされたも
	のでなければなりません。つまり、メタデータを組織化する技術を身につけること
	が、的確に情報を利用・提供するスキルに結びつくといえます。実務として資料整理
	業務を経験する機会は少なくなってきている状況があるとしても,図書館員は資料
	組織化の最新技術を知っておく必要があります。このコースは、いわば、あらゆる図
	書館業務を行う上での基礎体力ともいえる専門性のトレーニングコースです。
	世界的な書誌情報の最新技術が RDA : Resource Description and Access です。RDA
	は、『英米目録規則』の後継として 2010 年に発表され、すでに欧米等ではスタンダ
	ードになっていますが,日本では NDL(国立国会図書館)が 2013 年 4 月から洋資
	料について採用された他には普及が進まず,その間に,RDA 自体も刻々と進化しま
	した。
	RDA は概念モデルとして FRBR を元にしていましたが,概念モデルを IFLA LRM:
	IFLA Library Reference Model に更新するための 3R プロジェクト(the RDA Toolkit
	Restructure and Redesign Project)が進められ,2020 年 12 月 15 日に正式版が変わ
	りました。しかし,日本国内で 3R について学ぶ機会はほとんど見当りません。3R 後
	に,タームの多言語化・翻訳や,LC/PCC(機関ごとの適用細則)の参照等が充実化
	している中で,日本のガラパゴス化が否めません。是非いっしょに RDA 3R の書誌
	世界観を学び,世界で活用されている RDA 3R を使ってみましょう。
各回内容	本講習では,"Introducing RDA. 2nd ed." をやさしく解説します。RDA についてま
	ったく知らないけど、これから学びたいと考えている方も参加可能です。
	第 1 回・第 2 回 RDA 3R の世界
	第 3 回・第 4 回 世界の RDA 3R
実施形態	オンデマンド教材をいつでも事前視聴可+Zoom オンライン形式での質疑応答と実習
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)
	·

- 1 >4H14>1411	
資格・経験等	国際標準が気になる人。資格・経験は問いません。
環境等	Zoom ミーティングを行うインターネット環境があれば参加可能です。

## 2023年度スキルアップ研修(日本目録規則 2018年版)コース案内

#### 1. 概要

- 170	
研修コース名	スキルアップ研修(日本目録規則 2018 年版)
期間(回数)	全5回。以下を予定しています。
	【第1回】6/15(木)、【第2回】6/22(木)、【第3回】7/6(木)、【第4回】8・9月
	頃、【第5回】10・11 月頃 (第4回と第5回は NACSIS-CAT における NCR2018 適
	用の検討状況をもとに決定します)
曜日・時間	木曜午前 10 時-12 時
担当者	岡田 智佳子(大学図書館支援機構、武蔵野大学・聖徳大学非常勤講師)

#### 2. 詳細

∠。 計州山	
到達目標	「日本目録規則 2018 年版」(以下「NCR2018」)が刊行されて 4 年が経ちましたが、
	今なお図書館現場からは「よく分からない」という声を聞きます。一方で、国立国会
	図書館の JAPAN/MARC や図書館流通センターの TRCMARC など、国内主要 MARC
	は既に NCR2018 適用済で、NACSIS-CAT も 2024 年度初めの適用に向けて検討が
	進んでいます。
	本講座では,NCR2018 を参照するために知っておくべき基礎知識と、NCR2018 の
	内容との 2 段階の構成により、「NCR2018 が分かる」ようになることを目的としま
	す。
各回内容	前半の2回では,NCR2018を参照するための基礎知識を学びます(=基礎編)。
	後半の3回では、NCR2018の各条項を具体例と共に学びます(=実践編)。
	なお、本講座では講義の録画は行いませんので、欠席された場合は、講義資料の提供
	のみとなります。
	第1回 NCR2018 の基礎知識①「FRBR モデル」
	第 2 回 NCR2018 の基礎知識②
	「NCR2018 の特徴-NCR1987 年版との違いを中心に」
	第3回 NCR2018 を知る① 「書誌の視点から-体現形・表現形の記録」
	第 4 回 NCR2018 を知る② 「典拠の視点から-著作及び第 2 グループ」
	第5回 NCR2018を知る③ 「NACSIS-CAT における NCR2018 適用について」
実施形態	オンライン形式
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)

> 481471411	
資格・経験等	NCR2018 を基礎から学びたい人。資格・経験は問いません。
環境等	インターネットに接続できる環境とブラウザー(Zoom を使用します)

## 2023年度スキルアップ研修ヘルスサイエンス コース案内

#### 1. 概要

- 1707	
研修コース名	スキルアップ研修(ヘルスサイエンスにまつわる情報検索)
期間(回数)	年6回
	【第1回】6月、【第2回】7月、【第3回】8・9月頃、【第4回】10月、【第5回】11
	月、【第6回】12月
曜日・時間	オンライン形式・平日 午後 3:00-4:30(途中休憩約 5 分を挟む)
	第2または第3水曜日(予定)
担当者	眞喜志 まり (東邦大学・大学図書館支援機構)

#### 2 詳細

2. 評細	
到達目標	本講座では医科学領域の学術情報担当者を対象に EBM をベースにした情報検索知識
	の習得を目的としています。利用者の目的を正しく理解し、選んで使いこなすために
	は、医科学系領域の論文やそれに関する学術資料の特性を知る必要があります。
	また、データベース検索などで収集した情報の内容確認・情報整理などについてもご
	希望があれば演習をしながら解説します。
各回内容	図書館サービスの一つであるレファレンス、その中でもヘルスサイエンス領域におけ
	るレファレンスについて、主に情報検索(データベース検索)を講義、ハンズオン、
	ディスカッションを交えて行う予定です。
	第1回 ライフサイエンス分野における情報収集(EBM を意識した情報収集)、質疑
	第2回 そのほかの情報源(ライフサイエンス分野の情報収集における便利ツール)
	第3回 「職場で感染対策について情報提供を求められました」あなたはどうします
	か?換気・環境消毒(テーブルなどの消毒)・フィジカルディスタンスって必
	要ですか?
	第4回 カウンターで「卒論で○○○について調べたいんですが、どうやって探せばい
	いですか?」と相談を受けました。あなたはどうしますか?→職場で悩んだ事
	例を持ち寄り下さい。
	第5回 「文献レビューをしたい」と相談を受けました。どういうポイントに気をつけ
	て相談に乗りますか?
	第6回 何度も同じ文献取り寄せ依頼をしてくる利用者がいます。どのようなフォロ
	ーができそうですか?
実施形態	オンライン形式(Zoom)
研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)

資格・経験等	ヘルスサイエンス情報に関心がある人。資格・経験は問いません。
人口 生物(	The state of the s
環境等	Zoom ミーティングを行うインターネット環境があれば参加可能です。
垛塊守	Z00m ミーティングで1] ティングーイット環境があれば多加可能です。

## 2023年度スキルアップ研修(学生協働)コース案内

#### 1. 概要

1. 1/1/25	
研修コース名	スキルアップ研修(大学図書館における学生協働を考える)
期間(回数)	全4回
曜日・時間	オンライン形式・月1回 土曜日午後4時間程度(途中休憩を挟む)
	1回目:6月17日(土)13時00分~17時00分
	2回目:7月15日(土)13時00分~17時00分
	3回目:8月19日(土)13時00分~17時00分
	4回目:9月16日(土)13時00分~17時00分
担当者	豊田 哲也(株式会社日本能率協会マネジメントセンター・大学図書館支援機構・元立
	命館大学図書館)

#### 2. 詳細

本講座は以下の4点を目的として開催いたします。
(1) 大学図書館における学生協働の意義について、改めて考える
(2) 講師および参加者同士による学生協働の事例紹介を通じて、自職場の学生協働に
おける「仕組み」、「学生とのコミュニケーション」をより良くするきっかけを得る
(3) 上記学生とのコミュニケーションをより効果的に行うためのスキルを学ぶ
(4) 研修での学びを自職場でどのように実践するかのアクションプランを立てる
本講座は、①講師による講義、事例紹介、②個人ワーク、③参加者同士のグループデ
ィスカッション、④全体共有、⑤総括という5つのセッションで組み立てます。各回
の詳細は以下の通りです。
事前課題:大学図書館における学生協働に関する論文を読む
1回目:大学図書館における学生協働の意義を考える
(1) 参加者自己紹介、本講座の狙いの説明
(2) 事前課題の解説
(3) 講師による大学図書館における学生協働のあり方の問題提起
(4) グループディスカッション
(2)、(3)に対する感想交流と大学図書館における学生協働のありたい姿について
(5) 全体共有
(6) 1回目のまとめと2回目の進め方の確認
2回目:大学図書館における学生協働を考える【仕組み編】
(1) 1回目の振り返りと2回目の目的説明
(2) 講師の学生協働の事例紹介
(3) グループディスカッション
(2) に対する感想交流と自大学の学生協働の事例紹介
(4) 個人ワーク
(2)、(3)を踏まえて、自職場の学生協働の仕組みの課題と解決策を考える

(5) 全体共有 (6) 2回目のまとめと3回目の進め方の確認 3回目:大学図書館における学生協働を考える【学生とのコミュニケーション綱】 (1) 2回目の振り返りと3回目の目の説明 (2) 学生協働を円滑に進めるためのコミュニケーションの重要性について (3) グループディスカッション 学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション 6() グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のボイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		果地区部会研究部
3回目:大学図書館における学生協働を考える【学生とのコミュニケーション編】 (1) 2回目の振り返りと3回目の目的説明 (2) 学生協働を円滑に進めるためのコミュニケーションの重要性について (3) グループディスカッション 学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(5) 全体共有
(1) 2回目の振り返りと3回目の目的説明 (2) 学生協働を円滑に進めるためのコミュニケーションの重要性について (3) グループディスカッション 学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の自的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッション② アクションブランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(6) 2回目のまとめと3回目の進め方の確認
(2) 学生協働を円滑に進めるためのコミュニケーションの重要性について (3) グループディスカッション 学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと 4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと 4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッション② アクションブランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		3回目:大学図書館における学生協働を考える【学生とのコミュニケーション編】
(3) グループディスカッション 学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションブランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(1) 2回目の振り返りと3回目の目的説明
学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等 (4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションブランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(2) 学生協働を円滑に進めるためのコミュニケーションの重要性について
(4) 学生協働で必要なスキル① マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと 4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと 4回目の説明 (2) あり方を見直す際のボイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(3) グループディスカッション
マネジメントとリーダーシップ (5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと 4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと 4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッション② アクションブランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		学生とのコミュニケーションについて大切にしていること、現状の悩み等
(5) 学生協働で必要なスキル② アサーティブコミュニケーション (6) グループディスカッション 今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと 4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと 4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のボイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションブランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ  実施形態 オンライン形式		(4) 学生協働で必要なスキル①
<ul> <li>アサーティブコミュニケーション</li> <li>(6) グループディスカッション         今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか         (7) 全体共有         (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認         4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す         (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明         (2) あり方を見直す際のポイントの再確認         (3) 個人ワーク         ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題         ・課題解決のためのアクションブランの作成         (4) グループディスカッション①         個人ワークの共有と相互フィードバック         (5) 個人ワーク         グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正         (6) グループディスカッション②         アクションブランの修正案の共有         (7) 全体共有         (8) 研修全体のまとめ         実施形態         オンライン形式</li> </ul>		マネジメントとリーダーシップ
(6) グループディスカッション		(5) 学生協働で必要なスキル②
今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか (7) 全体共有 (8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		アサーティブコミュニケーション
(7) 全体共有 (8) 3 回目のまとめと 4 回目の進め方の確認  4 回目: 自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3 回目の振り返りと 4 回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(6) グループディスカッション
(8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認 4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションブランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		今後、学生とのコミュニケーションをどのように行っていきたいか
4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す (1) 1~3回目の振り返りと4回目の目的説明 (2) あり方を見直す際のポイントの再確認 (3) 個人ワーク ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(7)全体共有
<ul> <li>(1) 1~3 回目の振り返りと 4 回目の目的説明</li> <li>(2) あり方を見直す際のポイントの再確認</li> <li>(3) 個人ワーク         <ul> <li>・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題</li> <li>・課題解決のためのアクションプランの作成</li> </ul> </li> <li>(4) グループディスカッション①             <ul></ul></li></ul>		(8) 3回目のまとめと4回目の進め方の確認
<ul> <li>(2) あり方を見直す際のポイントの再確認</li> <li>(3) 個人ワーク         <ul> <li>・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題</li> <li>・課題解決のためのアクションプランの作成</li> </ul> </li> <li>(4) グループディスカッション①             個人ワークの共有と相互フィードバック</li> <li>(5) 個人ワーク</li></ul>		4回目:自職場の学生協働のあり方を考え直す
(3) 個人ワーク     ・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題     ・課題解決のためのアクションプランの作成     (4) グループディスカッション①         個人ワークの共有と相互フィードバック     (5) 個人ワーク         グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正     (6) グループディスカッション②         アクションプランの修正案の共有     (7) 全体共有     (8) 研修全体のまとめ  実施形態  オンライン形式		(1) 1~3 回目の振り返りと 4 回目の目的説明
・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題 ・課題解決のためのアクションプランの作成 (4) グループディスカッション① 個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正 (6) グループディスカッション② アクションプランの修正案の共有 (7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(2) あり方を見直す際のポイントの再確認
<ul> <li>・課題解決のためのアクションプランの作成         <ul> <li>(4) グループディスカッション①</li></ul></li></ul>		(3) 個人ワーク
<ul> <li>(4) グループディスカッション①</li> <li>個人ワークの共有と相互フィードバック</li> <li>(5) 個人ワーク         グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正</li> <li>(6) グループディスカッション②         アクションプランの修正案の共有</li> <li>(7) 全体共有</li> <li>(8) 研修全体のまとめ</li> <li>実施形態</li> </ul>		・自職場の学生協働における仕組みとコミュニケーションにおける課題
個人ワークの共有と相互フィードバック (5) 個人ワーク		・課題解決のためのアクションプランの作成
<ul> <li>(5) 個人ワーク         がループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正         (6) グループディスカッション②             アクションプランの修正案の共有         (7) 全体共有         (8) 研修全体のまとめ         ま オンライン形式</li> </ul>		(4) グループディスカッション①
グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正         (6) グループディスカッション②         アクションプランの修正案の共有         (7) 全体共有         (8) 研修全体のまとめ         実施形態		個人ワークの共有と相互フィードバック
(6) グループディスカッション②		(5) 個人ワーク
アクションプランの修正案の共有 (7)全体共有 (8)研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		グループディスカッションの内容を踏まえて、アクションプランの修正
(7) 全体共有 (8) 研修全体のまとめ 実施形態 オンライン形式		(6) グループディスカッション②
(8) 研修全体のまとめ         実施形態       オンライン形式		アクションプランの修正案の共有
実施形態 オンライン形式		(7)全体共有
		(8) 研修全体のまとめ
研修報告大会 12月中旬頃に開催 (登壇者を研修内で募ります)	実施形態	オンライン形式
	研修報告大会	12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)

資格・経験等	①大学図書館における学生協働を既に実施している方
	②今後大学図書館における学生協働の導入を本格的に検討している方
	※上記①、②のいずれかに該当する方
環境等	Zoom ミーティングを行うインターネット環境があれば参加可能です。

## 2023年度 スキルアップ 研修 (電子リソース)コース案内

#### 1. 概要

研修コース名	スキルアップ研修(電子リソースに一から向き合う)
期間(回数)	全4回
曜日・時間	オンライン形式・午後3時間程度
	1回目:8月5日(土)13時00分~16時00分
	2回目:9月2日(土)13時00分~16時00分
	3回目:9月30日(土)13時00分~16時00分
	4回目:11月4日(土)13時00分~16時00分
担当者	吉野 知義 (神田外語大学・大学図書館支援機構)

#### 2. 詳細

4. 計和	
到達目標	この研修では、これから図書館の運営および管理を担う世代を主な対象
	として、大学図書館には必要不可欠となった電子リソースの現状に改め
	て向き合うことから始めます。そして、今後も増加する電子リソースの
	基本的な理解を深め、利用促進から効率的な管理方法、資料や予算の構
	成、人的リソースの構築を含む図書館全体を俯瞰した視点を持てるよう
	になることを目指します。
各回内容	電子リソースに特有の資料管理、コレクション形成、契約管理、技術的
	課題などを解説とともに、受講者相互の状況の理解・共有を通して、学
	内での利用促進、外部機関との連携等を含めた将来的な展望を持てるよ
	うに進めます。
	なお、進行状況に応じて、簡単な課題を出す場合があります。
	1回目:電子リソースの現状をつかむ
	・アイスブレーク
	・電子リソースとは何か
	・電子リソースの成り立ち
	・他の図書館資料との関係性
	2回目:電子リソースの流通を見る
	・学術情報流通の中での電子リソース
	· Open Access
	・コンソーシアム
	・電子書籍と出版
	3回目:電子リソースの管理を知る
	・電子リソースを取り巻く技術
	・利用統計の活用

	・契約、ライセンスの管理	
	・ERMS(電子リソース管理システム)	
4回目:電子リソースの運用を考える		
・電子リソース運用に必要なスキル		
	・学内での利用促進	
	・図書館・大学運営における位置づけ	
	・まとめ	
実施形態	オンライン形式	
研修報告大会	て会 12月中旬頃に開催(登壇者を研修内で募ります)	

#### 3. 受講条件

資格・経験等	電子リソースについて基礎から学びたい人。資格・経験は問いません。
環境等	Zoomミーティングを行うインターネット環境があれば参加可能です。

以上

## 2023 年度 初任者研修報告書

私立大学図書館協会東地区部会研究部 2023 年度初任者研修 編集 2024 年 2 月 15 日 発行

#### 私立大学図書館協会東地区部会研究部 2023 年度初任者研修 参加者

横浜商科大学 図書館 浅葉 洋樹

東京女子大学 図書館 海老原 千都

帝京大学 メディアライブラリーセンター 粕谷 哉子

駒澤大学 図書館 越谷 容子

聖徳大学 川並弘昭記念図書館 里内 多美恵

慶應義塾大学 信濃町メディアセンター 佐山 のの

盛岡大学 図書館 渋谷 美妃

立教大学 図書館 武田 結衣

慶應義塾大学 三田メディアセンター 手島 善人

学習院大学 図書館 中村 成吾

東海大学 附属図書館 野島 裕樹

常磐大学 情報メディアセンター 長谷川 聖磨

聖徳大学 川並弘昭記念図書館 藤 佳純

東京女子大学 図書館 堀越 利里

津田塾大学 図書館 松井 夏希

成城大学 図書館 松本 雄哉

和光大学 附属梅根記念図書·情報館 山岸 仁美

相模女子大学 附属図書館 山本 碧

国立音楽大学 附属図書館 吉田 直輝

立正大学 図書館 吉野 和真

日本体育大学 図書館 渡邉 沙緒理

## 目次

はじめに	z 	. 3
第1回	「これからの図書館の話をしよう!」	. 4
第2回	「バーチャルライブラリーツアー 動画試写会」	. 6
夏季見学	学ツアー	. 8
第3回	「電子リソース」	10
第4回	「学生協働を活かすには」	12
おわりに		14

#### はじめに

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行してから、約半年が経過した。大学に目を向けると、対面授業が再開され、マスクの着用が個人の自由となっている。 筆者の大学図書館においても、制限されていた学外利用者の来館を再開する等、さまざまなサービスの制限が緩和され、コロナ禍以前の状況に戻りつつある。

その一方で、入館者数はコロナ禍前の水準まで回復していない。特に学生生活の半分以上をコロナ禍中で過ごしてきた 3・4 年生は大学図書館になじみがない傾向があり、彼らに図書館に足を運んでもらうための広報活動に苦慮している。学生協働も再開されたが、学生同士の引継ぎがコロナ禍によって断絶してしまった。コロナ禍の爪痕は、大学図書館にも未だ深く残っているのが現状と言えるだろう。

しかし、コロナ禍を経て、大学の教育・研究の DX が進んだこともまた事実である。電子書籍や電子ジャーナル、データベースなどの電子リソースの重要性が増し、オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方に関する議論が加速した。図書館員の役割や求められるスキルも、よりデジタルと紐づいたものに変化していくと考えられる。

変革期にある大学図書館にあって、私たち新任の図書館員は、大学図書館の現状を理解したうえで、図書館員のあるべき姿を模索する必要がある。2023年度初任者研修は、この問題意識を講師および参加者が共有したうえで行われた。全4回・各4時間のオンライン研修、および大学図書館の見学ツアーによって、大学図書館の業務について学ぶとともに、他大学図書館の図書館員との交流を深めた。

本報告書は、研修報告大会とあわせて 2023 年度初任者研修の成果物として位置づけられるものである。研修の各回の趣旨、実施内容、各図書館で抱える課題、研修で得た学び等について、参加者で分担執筆した。執筆・編集を通して、各々が自身の持つ問題意識と向き合い、研修内容への理解を深めることが、本報告書の目的である。

文責 渋谷 美妃 (盛岡大学) 山本 碧 (相模女子大学)

吉田 直輝 (国立音楽大学)

#### 第1回「これからの図書館の話をしよう!」

#### ①テーマの趣旨

現在、デジタル化が加速する状況にあって、社会的に大学図書館が果たす役割の問い直しが必要になっている。第1回では、「これからの図書館の話をしよう!」と題した講演を通し、大学図書館員に求められるスキルについて、利用者のニーズの観点から総合的に俯瞰することを目的とした。

#### ②講演

演 題 「これからの図書館の話をしよう! - 大学図書館職員の DX-」 講演者 高野 真理子 氏 (大学図書館支援機構)

#### 1) 未来の図書館像

インターネットの普及により情報へのアクセスが容易化した 21 世紀以降、資料保管庫としての図書館に期待を寄せない人が増加する傾向にあるのではなかろうか。しかしその一方で、アクセスの容易さは整理・管理が追い付かない情報量をもたらし、結果として昨今では情報を取得選択するリテラシーの重要性が増している。

このような社会環境において、図書館(員)の役割とはなんだろうか。それはまず個々人が、情報を組織化する力と情報を使うナビゲート力を培い、その上でこれを使って利用者の求める情報資源を的確に提供することによって、利用者に情報検索の付加価値を提供し続けることだと考えられる。

#### 2) デジタル化社会における大学図書館の情報提供機能

上記で述べたようなデジタル化社会において、殊に大学図書館では、資料やオンラインサービスが多様化・高度化していることに伴い、「データ・ライブラリアン」「データ・キュレーター」「データ・アーキビスト」「サブジェクト・ライブラリアン」といった、新しい専門家が求められている。

また、学生の読書離れが進んでいることや、コロナ禍で加速した非来館型サービスの拡充により、学習支援機関としての機能が見直されている。これらの変革期にあって、大学図書館員は、情報リテラシー教育、アクティブラーニング、インストラクショナルデザインなどを踏まえ、大学図書館自体の役割を再定義する必要がある。

#### 3) 利用者という文脈で捉えた図書館員のスキル

今日では情報の二次利用や書誌データベースの充実によって、書誌情報が様々なレイヤーで混在している。これに対し、図書館員は書誌情報を適切に読み取る、目録上の書誌情報からその資料をイメージするといった、学術情報資源に関する知識・想像力を涵養する必要がある。このようなスキルは、膨大な情報の中から適切な文献を選別する指標を持ち、利用者と利用者の求めるものを適切に繋ぐサポートを行う上で、有益であろう。

#### ③学びと考え

インターネットを通じて誰もが手軽に情報にアクセスできるようになり、玉石混交の情報が氾濫する状況下で、利用者の求める情報を的確に提供するスキルが今まで以上に図書館員に求められるようになった。近年では、学問の細分化・学際化、学生の多様化、コロナ禍に端を発した急速なオンライン化、さらには生成 AI の登場など、大学図書館を巡る状況は刻々と変化している。

私たち図書館員は、従来の大学図書館の役割を継承しつつも、時代の変化に対応する、新たな「ライブラリアン」を目指さなければならない。その為には、社会や利用者のニーズにアンテナを張り、積極的に仕事に取り組む必要がある。図書館界および社会全体の動向を注視しながら、研修への参加や他大学の職員との交流を通し、変化に対応する図書館員として研鑽を続けたい。

文責 越谷 容子 (駒澤大学) 里内 多美恵 (聖徳大学)

藤 佳純 (聖徳大学)

#### 第2回「バーチャルライブラリーツアー 動画試写会」

#### ①テーマの趣旨

2019 年度までは大学図書館の見学ツアーを行っていたが、新型コロナウイルス感染症により対面でのツアー実施が難しくなった。その代替として、2021 年度から、各参加者が作成した図書館紹介動画を視聴する「バーチャルライブラリーツアー」を実施している。第2回では、短時間の動画で自館の魅力を発信する技術を磨くこと、他館の施設や取り組みを見学し参考にすることを目的とした。

#### ②課題・実施内容

#### <課題>

約 5 分の自館の紹介動画を制作する。動画の形式や使用するツールに制限はなく、動画の対象者についても新入生、新任教員、学外者、一般広報、他大学図書館など各自で設定をする。

#### <実施内容>

Zoom の画面共有機能を用いて各参加者が制作した図書館紹介動画を視聴後、逐一制作者の解説および講師からの講評が行われた。研修の最後に最優秀賞の投票が行われ、聖徳大学の藤佳純さんが受賞した。

#### ③学びと考え

使用ツールに特段の指定はなかったため、PowerPoint から PC の動画編集ソフト、はたまたスマートフォンの動画編集アプリケーションに至るまで、様々なアプローチが見受けられた。また、視聴対象や投影シーンなどの詳細も自由に設定できたことから、各館の事情なども考慮した、画一的ではないシチュエーションの動画を視聴できた。

各動画には創意工夫がなされており、例えばナレーションの入れ方ひとつをとっても、肉声を当てるか、合成音声を採用するかによって一長一短がある。参加者の肉声によるナレーションは自然で親近感を覚える一方で、合成音声によるナレーションは明瞭で聞き取りやすかった。館内での使用を想定して、あえて無音を採用している動画もあった。

動画の形式は多種多様であったが、いずれも施設やサービスの特徴が明確に伝わってきたのが印象的だった。加えて、制作者の解説において各動画の想定場面、意図が明かされることで、動画の形式によって効果的な活用方法が異なることを実感した。一例としては、しっかりとした内容で BGM やナレーションが豊かな動画は学外への広報素材として有用である一方、ノイズの観点で館内での利用案内には向かない。翻ってシンプルかつ無音の利用案内は、館内のデジタルサイネージなどで繰り返し投影するのに向いている。

今回は自身の動画作成のみならず、多彩な動画を視聴することで、あたかもツアーよろしく他館の様子を端的に掴めたとともに、動画の広報可能性について考えを深めることができた。この経験を活かし、多くの利用者に図書館の魅力を伝える技術を磨いていきたい。

文責 浅葉 洋樹 (横浜商科大学)

手島 善人 (慶應義塾大学三田)

浜野 花奈子 (武蔵野音楽大学)

渡邉 沙緒理 (日本体育大学)

#### 夏季見学ツアー

#### ①ツアーの趣旨

初任者研修の前身である研修分科会では、例年 8 月に大学図書館の見学ツアーを対面で 実施していた。新型コロナウイルスの感染が拡大した 2020 年度以降は実施を見合わせてい たが、今年度は 2023 年 5 月に感染法上 5 類に移行されたことに伴い、感染対策の上で実施 されることとなった。見学先は、駒澤大学図書館、日本女子大学図書館、学習院大学図書館 というここ数年で開館した新しい大学図書館 3 館であり、各館職員の説明を受けながら館 内を見学した。

本ツアーを通して、各館の概要や構造上の特徴、サービスの創意工夫等を学び、自館との 共通点および相違点を把握することによって、今後どのようなサービスを展開するべきか 検討することを目標とした。

#### ②各大学図書館の概要

見学先の3館の学生数、収容可能冊数、建物の延べ床面積は以下の通りとなっている。

	学生数	収容可能冊数	建物の延べ床面積
駒澤大学図書館	約 14,000 人	約 108 万冊	11,000 m <sup>2</sup>
日本女子大学図書館	約 8,000 人	約 70 万冊	7,000 m <sup>2</sup>
学習院大学図書館	約 9,000 人	約 112 万冊	8,000 m <sup>2</sup>

<sup>※</sup>日本女子大学の学生数は、通信教育課程を含む。

#### ③見学内容・学び

#### <駒澤大学>

2022 年 10 月に完成した図書館で、集密書架を多く設け、全面開架を目指した構造が特徴である。また、閲覧が中心のエリア、集密書架が中心のエリア、発話可能なエリアなど、様々な利用目的に対応してゾーニングされている。集中できる環境やリラックスして議論できる環境など、エリアごとの目的に合わせて閲覧席の家具に工夫が施されていた。また、大学の歴史を学ぶことができる展示コーナーや、準貴重図書の入庫探索が可能な特別資料庫と優先の閲覧席が設けられており、準貴重図書についても可能な限り利用者に届くよう制度設計がなされている。貴重書庫の防虫対策には特に力を入れられていた。

図書館員の方々の取り組みにも、様々な工夫があった。例えば、1階エントランス付近には、様々な図書の展示や、電子書籍の該当サイトに繋がる QR コードの展示があり、サイネージには閲覧席等の混雑状況が表示されていた。

これらの構造的特徴や図書館員の方々の取り組みは、利用者に対しより多くの資料との 出会いを促し、また多様な利用者に寄り添う心遣いを感じられるものであった。図書館で働 くにあたり、利用者の立場を常に考えるという視点は必要不可欠であり、私自身も取り入れ るべき重要な行動指針であると考えた。

#### <日本女子大学>

目白・西生田キャンパス統合に伴い、2019年4月に開館した図書館である。ラーニング・コモンズさくらには閲覧席や集団利用が可能な席、ベンチのほか、フロアを取り巻くように配されたスロープ上には、個室(グループ研究室)が設置されている。図書館がガラス張りとなっており、開放感のあるスペースとなっていた。吹き抜けが導入されている点や、書架と書架のスペースが広い点など、工夫が施されており、居心地の良い図書館だと感じた。また、カウンター付近にはPCが設置され、さらにノートPCの貸出も行っており、本の閲覧のみならず、自学自習に励むことができる環境が用意されていた。

従来の図書館はただ本がある場所というイメージを払拭できるような、環境整備が施されており、学園の象徴になる可能性を感じた。

#### <学習院大学>

2023年4月に開館した、知と出会う場所、知をつなげる場所、知をはぐくむ場所という 3つの「知」をキーワードにした図書館である。ここでは特徴として2点報告する。

一つ目の特徴は、「階層による目的別ゾーニング」である。2階から4階を中心とした低層階には、アクティブラーニングエリアやグループ学習室などがあり、利用者が互いに会話しながら学習できるフロアだった。一方で、5階以上の高層階には、書架の他にミニ研究室のような個人学習室もあり、一人で集中して学習・研究できる空間が整備されていた。また、観葉植物を取り巻くように設置された閲覧席や、読書用のゆったりとした一人掛けソファなど、施設全体として学生がオンとオフの切り替えがしやすい空間になっていた。

二つ目の特徴は、「書架への自由なアクセス」が挙げられる。11 階の貴重書を除くすべての資料を、利用者が自由に手に取ることができるように整備されていた。8 階から 10 階の集密書架も開架式を採用していた。これによって、利用者は目的の資料だけではなく、その周りにある関連する資料も直接見て手に取ることができる。新たな資料との偶然の出会いによって、ひらめきや連想が呼び起こされることが期待される。

#### **④まとめ**

各館とも、明るく広い空間が印象的だった。天井が高く窓も多い構造によって、外光が館内まで行き渡るような工夫がなされていた。また、開架率の向上に対する意識が高い点でも共通していた。書架の狭隘化という課題を抱えながらも、集密書架や壁面書架を採用することで、可能な限り開架を目指していた。各館の課題意識を基に、綿密に計画された図書館であったと言える。

図書館業務の参考になる多くの取組みがあり、私たち初任者にとって実りある見学ツアーであった。大学図書館を取り巻く環境の変化に対応し、充実した利用者サービスを提供できるよう、課題意識を持って日々の業務にあたっていきたい。

文責 武田 結衣 (立教大学) 野島 裕樹 (東海大学) 吉野 和真 (立正大学)

#### 第3回「電子リソース」

#### ①テーマの趣旨

大学図書館は紙媒体の資料だけでなく電子リソースも扱っており、資料全体に占めるその割合は決して小さくない。コロナ禍を経て、大学図書館と電子リソースは殊更切り離すことができなくなったと実感している。第3回では、日々の業務で電子リソースに接する参加者が、その成り立ちや特徴について学び、考えることを目的とした。

#### ②課題・ディスカッションの内容

#### <課題>

各館における電子リソースの困りごと、および電子書籍の利用促進の取り組みを調べ、スライドにまとめた。

#### <ディスカッションの内容>

全体で1人ずつ事前課題について発表した後、5~6名のグループに分かれて議論した。 筆者のグループでは、電子リソースの利用促進と、電子書籍の選書基準に焦点を当てて話し 合った。

電子リソースの利用促進については、電子図書館サービス LibrariE の利用が伸び悩んでいることが話題に上がった。電子リソースの充実は学習活動にも影響を与えるものであり、利用促進のために講習会やイベント等で広報することが課題であるという結論に至った。

電子書籍の選書基準については、シラバス指定図書に加えて、キャリア支援関連資料や旅行書などの消耗品を電子書籍で購入している事例が多かった。教員との連携を図りながら、各学科で利用の多い資料を調査することの重要性について議論した。

#### ③講演

演 題 「電子リソースの達人を目指して」

講演者 吉野 知義 氏(神田外語大学・大学図書館支援機構)

本講演では、「電子リソース」を電子ジャーナル、電子書籍、データベースの3つに大別し、それぞれの特性について、学術情報流通という観点から見ていった。各リソースの成立過程を端緒とし、提供元の違い、国内外の事情の他、Electronic Resources Management System 導入の可能性に至るまで言及された。

最後に、各館で契約している電子リソースが在籍者であれば利用可能であること、学習・研究活動に有用であることを積極的に広報することが重要であり、その手段の一つとして電子リソースをマッピングして示す方法が示唆された。

#### ④学びと考え

事前課題の発表にて、電子リソースに関する問題は、価格高騰への対応など共通して抱えているものと、各館に固有のものがあるということがわかった。また、電子書籍の利用促進

の取り組みについてのディスカッションは、各館の特色や特性を生かした工夫を知ること ができたよい機会であった。

大学図書館では、様々な電子リソースを各担当者によって異なる側面から取り扱っている。職員数が比較的多い館では、複雑な様相を呈する電子リソースの一側面しか知り得ないということもあるだろう。今回の研修のように一度基本に立ち返って学ぶことは、電子リソースをめぐる現状を俯瞰することにつながる。その上で、この学びは各館が直面している課題解決の糸口、他担当者の業務に対する理解、ひいては利用者サービスの向上にも役立つものと思われる。

文責海老原 千都(東京女子大学)佐山のの(慶應義塾大学信濃町)山岸仁美(和光大学)

#### 第4回「学生協働を活かすには」

#### ①テーマの趣旨

大学図書館における様々な「学生協働」は、多くの大学図書館で進んでいる、あるいはこれから始めようと考えられているのではないだろうか。第 4 回では、図書館の視点から学生協働の定義やその意義を再考し、大学全体ひいては広くステークホルダーを巻き込んだ具体的な実践について検討することを目的とした。

#### ②実施内容

<事前課題論文>

「大学図書館における学生協働とは何か」

岡野裕行. 情報メディア研究. 2019, vol. 18, no. 1, p. 29-40.

#### <講演>

演 題 「大学図書館における学生協働の本質を考える」

講演者 豊田 哲也 氏 (株式会社日本能率協会マネジメントセンター・大学図書館支援機 構・元立命館大学図書館)

#### 1) 事前課題論文「大学図書館における学生協働とは何か」の解説

本論文で岡野は、大学図書館における学生協働を「学生自身がさまざまな人たちの活動に触れながら協働関係を結び、新たなつながりと成果を生み出す場の創出を可能とする関係のデザイン」と定義する。学生協働の主体は学生であり、図書館員を含む教職員は対等な視点を意識しながら、図書館や大学の制約に囚われない形で環境整備に動く必要があるとしている。

#### 2) 講義「大学図書館における学生協働の本質とは何か」

講義の始めに「学生協働の目的は学生の学びと成長を支援することではないか」と問題提起が行われた。支援の方向性を決める判断軸のために、大学の建学の精神や教学理念に沿うことを意識しつつ、図書館職員は学生に対してどのような姿になって欲しいのかといったビジョンを再認識することが重要とのことであった。

また、立命館大学図書館で過去に行われていた学生協働の取組事例や工夫について紹介があり、単に学生に業務を任せるだけではなく、図書館業務のマニュアル作成や業務研修を学生自身に行ってもらう、主体性や指導力の向上を目的とした試みが共有された。

#### ③ディスカッションの内容

4人前後のグループに分かれ、課題論文および講義の感想についてディスカッションを行った。

#### <課題論文の感想>

各館で行っている学生協働の取り組みを共有し、意見交換を行った。司書資格取得を目指す学生のアルバイト採用や、クラブ活動イベントの他部署との共催等が挙げられたほか、図書館紹介動画を学生が作成する興味深い取り組みもあった。

#### <講義の感想>

大学図書館における学生協働の意義を再考し、それを図書館サービスの形でどのように 展開することができるかという点において、今後意識すべきと考えられることを共有した。 その後、Zoom のチャット機能を使用して、全体で意見を共有した。学生を信頼して共に仕 事をすること、学生とビジョンを共有することの大切さを感じたという意見が挙げられた。

#### ④学びと考え

これまでは学生協働を利用者・図書館職員の手伝いと捉えている部分が大きかったが、今回の講義とグループワークを経て、学生の学びと成長を支援することを意識し、大学図書館と学生との繋がりを作っていく機会を積極的に設けたいと考えに変化が生まれた。

その上で、そのビジョンに建学の精神や教学理念などを反映し、大学全体として学生協働 へ取り組むことができれば、学生同士はもちろんのこと、教員や職員のみならずその他多様 なステークホルダーとの関わりの機会が得られるだろう。さらにはこの機会をきっかけに、 在学中のみならず卒業後も続く、長期的な関係を築くことができるかもしれない。

今後は、本研修のように他大学の職員とのディスカッションや、大学全体での実践と振り返りなどを重ね、より具体的な学生協働のあり方を模索していきたい。

文責 粕谷 哉子 (帝京大学) 長谷川 聖磨 (常磐大学) 松井 夏希 (津田塾大学)

#### おわりに

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行後、社会全体として徐々に対面コミュニケーションの機会が取り戻されるようになり、その代えがたい価値を実感したことは周知のとおりである。他方で、同期間にデジタルテクノロジーの有用さが浸透したことは疑いない。今般ではビジネスシーンのみならず大学においても、合理性や配慮の観点から教育・研究の DX が見て取れる。

社会全体がコロナ禍以前とは異なる様相でアフターコロナ時代を志向する最中、図書館においても新たな図書館像が模索されている。ではアフターコロナ時代の図書館像とはどのようなものか。それは決して明示的なものではなく、我々の日々の試行錯誤の中で体現され、様々な場での議論を経て、後に振り返ることで語られ得るものであろう。このような時節にあって、本研修に参加したことは特筆に値する。

さて、本研修はその回数を昨年度より減らしつつも、臨時ツアーを含む全 5 回にて開催された。Zoom での開催を原則としつつ、一部は対面での実施が叶った。コロナ禍をアクチュアルに経験してきた我々参加者にとって、4 年ぶりの対面ツアー開催は感慨深いものになったのではなかろうか。

ツアーについてさらに言及したいのは、対面ツアーとバーチャルライブラリーツアーの 双方を開催できた点である。対面ではその図書館の空気、質感をまさに「肌」で感じること ができ、筆舌に尽くし難い経験となった。一方で、バーチャルツアー試写会では各館の多彩 な特徴のみならず、動画のツールとしての活用可能性、広報手段としての魅力など、多くの 学びがあった。リアルとバーチャルを対比的に経験できたことは、単なる機会としてそれを 享受するのみならず、発展的に考察を深める上で有意義であった。

その他の回では、各テーマに沿った講演およびディスカッションにて構成された。詳細は各回の報告を参照されたいが、研修全体を俯瞰してみれば、第1回では総論、第3回では資料論、第4回ではサービス論とバランスよく、かつユニークな軸を持った内容であったように思われる。

また、本研修では単なる座学に留まらず、積極的にグループワークが取り入れられ、参加者同士の交流の機会も盛んであったことも記しておきたい。時には与えられた課題から逸れて、各館の事情や参加者自身の抱える悩みの共有へ派生することもあったが、その点も研修の醍醐味であったと確信している。半期に一度は懇親会を実施できたことも、タイミングと繋がりに恵まれてのことである。

本研修の目標は「現場で活躍できる人材」、「変化・成長し続けられる人」、つまりは「主体的で能動的な学習者」となることであった。振り返って思うことは、研修を経て図書館およびその周辺環境が直面する動態について、様々な角度から理解を深めることができたという点である。初任者とはすなわち未熟であることは事実だが、一方で未来に可能性が開かれているということもできるのではなかろうか。先述の通り、これからの予見不可能な図書館像を築いてくという自負を持ちつつ、主体的・能動的に日々の業務に邁進したいと気持ちを新たに奮う次第である。

最後に、本研修の実施にあたっては多くの方のご協力があった。まず、研修全体を企画・

運営してくださった私立大学図書館協会東地区部会研究部の皆様、そしてご担当くださった NPO 法人 大学図書館支援機構の高野氏に厚く御礼を申し上げる。さらに各回でご講演くださった講師の皆様、対面ツアーにご協力いただいた駒澤大学図書館、日本女子大学図書館、学習院大学図書館のご担当者様および調整いただいた参加者にも、改めて感謝の念を示したい。

文責 手島 善人 (慶應義塾大学三田)

編集総括 手島 善人 (慶應義塾大学三田)

吉田 直輝 (国立音楽大学)

2023 年度 初任者研修報告書

2024年2月15日

編集·発行 私立大学図書館協会東地区部会研究部 2023 年度初任者研修 https://www.jaspul.org/index.html



## 初任者研修 2023年度研修報告

私立大学図書館協会東地区部会研究部 研修報告大会

2023年12月15日(金)

1

## 発表者

初任者研修について 概要,第1回 中村 成吾 (学習院大学)

第2回,夏季見学ツアー 松本 雄哉 (成城大学)

第3回,第4回 堀越 利里(東京女子大学)

## 初任者研修について

#### 【受講者数】22名

【開催日】2023/6/23(金),8/4(金),8/30(水)※,10/13(金),11/17(金)

【開催方法】Zoomミーティング ※8/30(水)のみ対面式で臨時開催

【時 間】13:00~17:00

【活動内容】事前課題、聴講、グループディスカッション(発表含む)等

3

## 研修目標

- ・現場で活躍できる人材
- ・変化、成長し続けられる人
  - = 主体的で能動的な学習者

## スケジュール

回次	日付	テーマ
第1回	6/23(金)	これからの図書館の話をしよう!:大学図書館職員のDX
第2回	8/4(金)	バーチャルライブラリーツアー動画試写会
臨時	8/30(水)	夏季見学ツアー: 駒澤大学図書館・日本女子大学図書館・学習院大学図書館
第3回	10/13(金)	電子リソース
第4回	11/17(金)	学生協働を活かすには

5

## 第1回 テーマ:大学図書館職員のDX

- ■開催日 6/23(金)
- ■全体の構成
- ・アイスブレイク(自己紹介)
- ・講演:高野 真理子 氏(IAAL)

「これからの図書館の話をしよう!

— 大学図書館職員のDX —」



## 第1回 テーマ:大学図書館職員のDX



#### ■要点

- ◎未来の図書館像あれこれ
- ◎デジタル化・ネットワーク化社会における大学図書館の情報提供機能について 考える
- ◎利用者・社会のニーズという文脈で捉えた図書館員のスキル

#### ■気づき

- ・図書館の評価はそれを支える「人」による。
- ・ツールを使いこなし、利用者が求めているものを入手までサポートできるかが 「人」の力。利用者を手ぶらで帰らせないという意識がサービス向上につながる。

7

## 第2回 テーマ:

## バーチャルライブラリーツアー動画試写会

- ■開催日:8/4(金)
- ■事前課題
- ・各受講者が所属する図書館の紹介動画を作成する。
- ・動画の対象者:

各自で設定する(新入生、新任教職員、学外者、一般広報、他大学等

- ・時間:5分程度
- ■最優秀賞:聖徳大学図書館

## まとめ

■紹介動画の対象者によってアプローチが変わってくることがわかった。



#### ・学生

ショート動画を好む傾向がある。作成者側は本当に伝えたい内容の取捨選択が必要になる。

・学外者(受験生等)

施設の雰囲気が伝わり、実際に利用したいと思わせるような構成。大学のキャラクター等を使用し、視聴者との距離を縮めるような工夫がいる。

■誰にでもわかりやすい情報提供は前提だが、視聴者によって求めている情報は異なり、二ーズに沿った情報提供できることが望ましい。

9

## 臨時回:夏季見学ツアー

■開催日:8/30(水)

■訪問先:

- 1. 駒澤大学図書館
- 2. 日本女子大学図書館
- 3. 学習院大学図書館
- ■訪問先の選定基準:

近年リニューアルした「新しい図書館」



#### 1.駒澤大学図書館

#### ■概要

- 2022年10月にリニューアル開館
- ■施設の特徴
- 1. フロアごとのゾーニングが明確
- 2. 利用者に配慮した多様な閲覧スペース
- 3. 座席の混雑状況の情報提供



11

#### 2.日本女子大学図書館

#### ■概要

2019年4月にリニューアル開館

- ■施設の特徴
- 1. 館内へ光を多く取り込める構造
- 2. 旧図書館の机や椅子の活用
- 3. 集密書架を活用したスペース作り



#### 3.学習院大学図書館

#### ■概要

2023年4月にリニューアル開館

- ■施設の特徴
- 1. 利用用途に合わせたゾーニング
- 2. オンとオフの切り替えがし易い空間作り
- 3.8階から10階で集密書架を採用



13

#### まとめ



- ■訪問した図書館に共通すること
- 1. 集密書架を用いたことによるスペースの効果的な活用
- 2. ラーニングコモンズスペースの充実
- 3. 居心地のいい空間作り
- ■これらから考えうる今の図書館施設に求められること
- ・限られたスペースを有効活用し、これまでの図書館と は異なる「学びの場」の提供

#### 第3回 テーマ:電子リソース

■開催日:10/13(金)

■事前課題

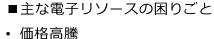
「電子リソースの困りごと」と「電子書籍利用促進の取り組み」について、所属する大学図書館での状況を調べそれぞれPowerPoint1-2枚にまとめる。

- ■全体の構成
- •課題発表
- ・グループディスカッション
- ・講演「電子リソースの達人を目指して」 神田外語大学教育支援部ゼネラルマネージャー 吉野知義氏



15

#### 課題発表・グループディスカッション





- 仙俗同應
- 利用が少ない
- 利用状況の把握が難しい
- ・ 利用教育が追い付かない 等
- ■電子書籍利用促進の取り組み例
- OPAC上での利用案内
- 館内・学内での掲示
- X(旧Twitter)の活用
- 資料展示 等

#### 講演

#### 「電子リソースの達人を目指して」



- ■ご説明いただいた項目
- 電子ジャーナル
- データベース
- 電子書籍

#### ■気づき

各図書館が抱える電子リソースの悩みごとの背景として、 現在に至るまでの歴史を知ることで理解が深まった。

17

#### まとめ



- ■電子リソースに関わる悩み・問題について考えていくうえで必要な基礎知識を得ることができた。
  - →電子リソースの課題に立ち向かうためのスタート地点に立てた。
- どこの大学でも同じような悩みを抱えていることが分かった。→初任者研修参加者同士でも助け合える関係を築いていきたい。

#### 第4回 テーマ:学生協働を活かすには

- ■開催日:11/17(金)
- ■全体の主な構成

#### 講演

「大学図書館における学生協働の本質を考える」 日本能率協会マネージメントセンター、IAAL正会員



19

#### 講演

「大学図書館における学生協働の本質を考える」



#### ■要点

- ・学生協働の位置づけ・捉え方
- ・学生協働の目的と手段
- ・取り組み例

#### ■気づき

・目指したいビジョンを学生と共有することの大切さ

#### まとめ



- ■大学における「学生協働」についての位置づけ、捉え方について 理解できた。
  - →「ただやる」のではなく、「目的」を意識できるようになった。
- ■大学によって「学生協働」の実施状況・内容は様々である。→各大学の状況に合わせて、学生協働を行なっていくべき。

21

#### 初任者研修まとめ



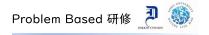
- ■「どういう図書館員をめざしていくべきか」深く考えることが できた。
- ■問題解決型の思考を念頭に置きながら各回の研修に臨めた。
  - →今後も、大学図書館が果たすべき役割、どういう図書館員を めざしていくべきか、考え続けていきたい。

# Problem Based研修 利用動向に応じたサービスの取り組み 図書館職員のスキルアップを目指して

東邦大学習志野メディアセンター 赤塚 勝 獨協大学図書館 深瀬 充央 獨協大学図書館 西村 英里子 東邦大学習志野メディアセンター 堤 亮平

#### PB研修年間開催記録

- 第1回 2023年 6月 9日(金)(実施形式:オンライン)
- 第2回 2023年 7月 7日(金)(実施形式:オンライン)
- 第3回 2023年 8月25日(金)(実施形式:オンライン)
- 第4回 2023年 9月29日(金)(実施形式:オンライン)
- 第5回 2023年 10月27日(金)(実施形式:オンライン)
- 第6回 2023年 12月 1日(金)(実施形式:オンライン)



#### 目次

- 1. 課題
  - (I) 利用統計
  - (2)要因
  - (3) 対策
- 2. サービス再考の取り組み
  - (1) 設備運用の変更(獨協大学)
  - (2) 利用促進のための広報 (獨協大学)
  - (3)展示会の工夫(獨協大学)
  - (4)展示会の工夫(東邦大学)
- 3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ
  Problem Based 研修 2 000





1.課題(I)利用統計

## 利用統計(獨協大学)

利用統計は右肩下がりの状況で,入館者数・貸出人数・貸出冊数等が減少している。

À	咸少	
	-	

	2019年度	2022年度	比較
入館者数	49.4万人	20.2万人	40.9%
貸出人数	7,528人	4,838人	64.3%
貸出冊数	13.3万冊	7.5万册	57.7%

注:入館者数・貸出冊数は延べ数、貸出人数のみ実数となっております。

Problem Based 研修 👢

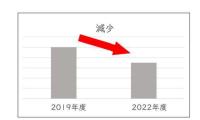




#### 1.課題 (I)利用統計

## 利用統計(東邦大学)

利用統計は右肩下がりの状況で,入館者数・貸出人数・貸出冊数等が減少している。



	2019年度	2022年度	比較
入館者数	20.1万人	14.0万人	69.6%
貸出人数	1.3万人	1.0万人	76.9%
貸出冊数	2.5万冊	1.8万冊	72.0%

注:入館者数・貸出冊数は延べ数、貸出人数のみ実数となっております。

Problem Based 研修 💆 🌑





#### 1.課題 (2)要因

## 課題の要因

#### その要因は

- ・大学および自宅での学習環境の変化
- ・授業のデジタル化
- ・モバイルデバイスに慣れた世代の入学
- ・図書館の不十分なガイダンス

#### と考えた。



#### 1.課題 (3)対策

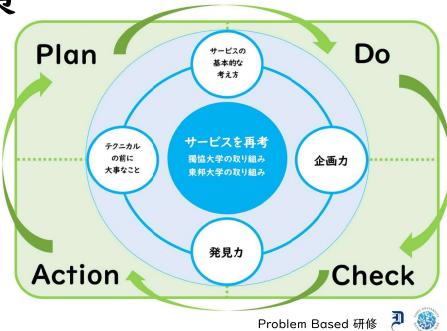
課題への対策

従って,これからも利用者の 図書館離れが広がると判断し, サービスを再考することにした。

その取り組みを

- ●問題 ②原因
- ❸対策 ❹検証

で報告する。



## スキルアップ

サービスを再考するにあたり、 私たち職員のスキルアップが必要です。

- 1. サービスの基本的な考え方
- 2. 企画力には発見力が必要
- 3. テクニカルの前に大事なこと

#### サービス再考の取り組み

#### 獨協大学図書館

- (1)設備運用の変更
- (2)利用促進のための広報
- (3)展示会の工夫

東邦大学習志野メディアセンター

(4)展示会の工夫

Problem Based 研修 💆 🚳





## サービス再考の取り組み 獨協大学図書館

## (1)設備運用の変更

1. 問題:館内施設の利用減少

2. 原因:旧態依然の運用

3. 対策:設備運用の見直し・変更

4. 検証:利用件数の推移を分析



#### 1. 問題:館内施設の利用激減

コロナ禍以降・・・

- ・オンライン授業の拡大 … 大学に来ない学生が増加
- ·学生のPC所有率が上昇 ··· 館内設置PCの利用が減少
- ・非来館型サービスの拡充 … 学外からも図書館サービスを利用可能に =大学/図書館外の学修環境が整備



・学生の利用者数が激減 = 館内施設(閲覧席)の利用が激減



★コロナ禍以前と同じ運用では、利用の回復は見込めない!

Problem Based 研修 💆 🍪





2.サービス再考の取り組み(1)設備運用の変更(獨協大学)

## 2.原因:旧態依然の運用

・水分補給スペースの制限

長時間滞在型の図書館を目指し、2011年から閲覧席を限定して 水分補給を許可していたが、10年以上、運用は変わらず。

=利用者から求められる長期滞在型図書館とは言い難い現状

#### ・煩雑な利用手続き

相談予約などでオンライン予約システム「DOORS」を導入している 部署もある中で、図書館内施設の利用受付はカウンター(対面)のみ。 =カウンターでの煩雑な手続きが利用を妨げている





2.サービス再考の取り組み(1)設備運用の変更(獨協大学)

#### 3.対策:設備運用の見直し・変更

- ・水分補給スペースの拡大
  - すべての館内施設(閲覧席)で水分補給を可能とする。
  - =長期滞在型図書館としての機能を強化することで、利用促進を図る。
- ・オンライン予約システムの導入

利用者が慣れている獨協大学オンライン予約システム「DOORS」を導入し、利用手続き(予約)をオンライン受付に切り替える。

=利用手続き(予約)を簡便化することで、利用促進を図る。

Problem Based 研修 🌉 🏐

2.サービス再考の取り組み(I)設備運用の変更(獨協大学)

#### 4.検証:利用件数の推移を分析

#### 水分補給スペースの拡大

- ・掲示物での広報を中心に、利用者へ周知。
- ・新たに水分補給可能となった閲覧席の 利用統計をもとに、分析していきたい。



Problem Based 研修

## サービス再考の取り組み 獨協大学図書館

## (2)利用促進のための広報

1. 問題:館内施設の認知度の低さ

2. 原因:情報発信不足

3. 対策:様々な手段による情報発信

4. 検証:利用件数の推移を分析

Problem Based 研修 💆 🚳





2.サービス再考の取り組み(2)利用促進のための広報(獨協大学)

#### 1.問題:館内施設の認知度の低さ

コロナ禍以降・・・

対面ガイダンスの激減により、図書館内を案内する機会が減少 =図書館で何ができるのか?図書館にはどんな施設があるのか?を そもそも知らないという学生が増加



学生の「図書館を利用しよう」という意識が低下



★利用案内 + 広報で、図書館の情報を発信することが必要!

2.サービス再考の取り組み(2)利用促進のための広報(獨協大学)

#### 2.原因:情報発信不足

- 対面ガイダンスの中止
  - 新入生全員に対して、対面ガイダンス、施設紹介の館内ツアーを 実施していたが、コロナ禍以降は中止。
    - =図書館について知る機会が減少
- ・図書館外の学習スペース利用の増加 空き教室、教室棟のラーニング・コモンズやフリースペースなど、 館外の学習スペースを利用する学生が増加。
  - =図書館設備が周知されていない

Problem Based 研修 💆 🧼

2.サービス再考の取り組み(2)利用促進のための広報(獨協大学)

#### 3.対策:様々な手段による情報発信

- ・ホームページ、SNS、ポスター、図書館だよりなど、 デジタルとアナログの両方を駆使。
- ・館内設備の活用事例を紹介 機能紹介に+αで、具体的な活用方法を紹介する。 =具体的なイメージを提示することで、館内設備の利用意欲を高める。
- ★情報の伝達が双方向になるよう、図書館が伝えたい情報よりも 学生が必要としている情報を汲み取り、発信することが重要!

#### 4.検証:実施結果、統計分析

「図書館だより」による広報(アナログ)

- ・10-11月号に施設利用の記事を掲載
  - ⇒AVコーナーの10月の利用件数が、 昨年比1.5倍に増加(62件 → 94件)
  - =宣伝効果が見られた



X(IITwitter)による広報(デジタル)

・ポストのインプレッション数、いいね数、リポスト数などに注目し、 利用状況にどれだけ変化があったか分析し、効果を測定したい。

Problem Based 研修 💆 🍪





## サービス再考の取り組み 獨協大学図書館

## (3)展示会の工夫

1. 問題:図書の利用頻度減少

2. 原因:貸出冊数減少の理由(考察)

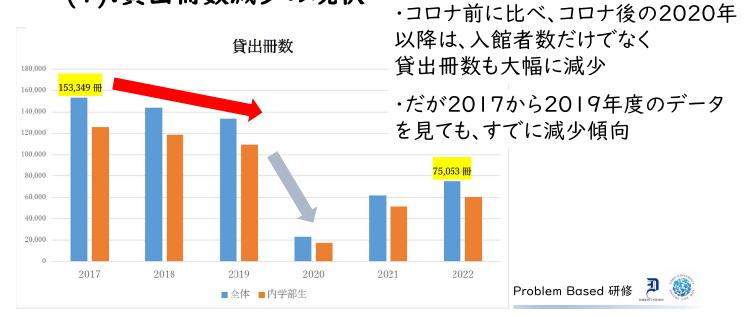
3. 対策:本学図書館ができること

4. 検証: 改善結果

2.サービス再考の取り組み(3)展示会の工夫(獨協大学)

#### 1.問題:図書の利用頻度減少

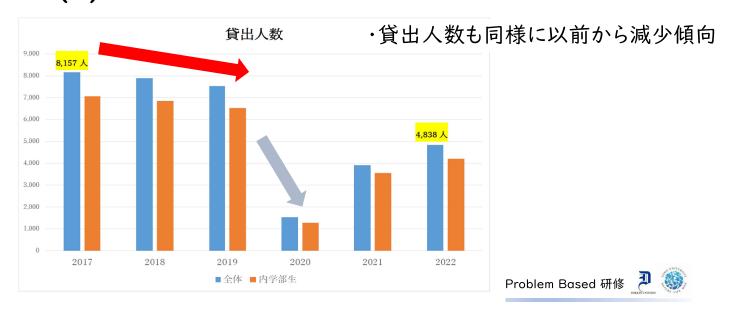
(1).貸出冊数減少の現状



2.サービス再考の取り組み(3)展示会の工夫(獨協大学)

#### 1.問題:図書の利用頻度減少

#### (2).貸出人数減少の現状

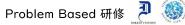


#### 1.問題:図書の利用頻度減少

・図書の利用・貸出数はコロナ前からすでに減少傾向にあった



「コロナだけ」が減少の原因ではない。 ⇒今後、より魅力的な図書館運営が必要不可欠







2.サービス再考の取り組み(3)展示会の工夫(獨協大学)

## 2. 原因:貸出冊数減少の理由(考察)

- ・授業や論文作成などで必要なもの以外は、あまり借りない可能性
- ⇒若者の本離れ (本以外でも様々な情報を簡単に得られる時代)
- ⇒どんな本を読めばよいのか分からない

#### レファレンス対応にて



なにか読んでみたい気持ちはあるが、本が多すぎて、 どんな本から始めたらよいか選び方が分からない....。



## 3. 対策: 本学図書館ができること

- ·利用者が借りる本を選ぶ際、I つの手助けとなるのは「展示」
- ・本学の場合、図書館入り口にある「特集展示」が一番目を引く展示
- ⇒ここで実践できる改善点を考えていく

Problem Based 研修 👂 🥨





2.サービス再考の取り組み(3)展示会の工夫(獨協大学)

## 3. 対策:特集展示概要

#### (I)特集展示概要

- ・ 図書館入ってすぐの棚で実施している大型展示
- ・年4回テーマを変えて実施 (WGメンバー4名で担当振り分け)
- ・大体30冊~40冊の資料を専任職員(12名)で選定
- ・ 蔵書検索(Opac)で一覧が見えるように設定
- · Twitterで2週間に1回は特集展示について投稿





Problem Based 研修 🝍





## 3. 対策:特集展示改善案

#### (2)改善案

- · I : 視覚的に目を引くコーナーにする
- ⇒まずは立ち止まって展示を見てくれるよう、デザインポップを追加
- ・2: 展示情報を確実に知ってもらえるような広報を行う
- ⇒利用者に直接チラシを配布
- ・3: 興味を持ち、本を選んでもらうための工夫を行う
- ⇒特におすすめしたい本(数冊)のポップを作成し、展示

Problem Based 研修 💆 🍪





2.サービス再考の取り組み(3)展示会の工夫(獨協大学)

## 4. 検証: 改善結果

(3)改善結果

改善前





- ・デザインポップの追加
- ・関連資料の展示



#### ◎ 今配布しているチラシ ◎

(※貸出の際にA6サイズのものを配布)





Problem Based 研修 🐉 🛞



#### 4. 検証: 改善結果

- (3)改善結果 特集展示期間:10月~12月
- 残念ながら立ち止まって、展示を見る学生が増えたという感覚はあまりない (カウンタースタッフより)
- ⇒もっと違う視点からのアプローチ方法を考える必要があることが分かった

★今後、結果を集計し、改善と検証を繰り返しながら、より魅力的な展示を行っていきたい。

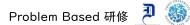


## (1)~(3)獨協大学における 取り組みのまとめ

時代のニーズに沿って利用者サービスを改善し続ける **学生が必要としている情報**を常に発信し続ける



大学の知の拠点として、学生の学修・研究を支援する







## サービス再考の取り組み 東邦大学習志野メディアセンター

#### (4)展示会の工夫

1. 問題:図書の貸出が減少

2. 原因:学生の学習環境の変化

3. 対策: 図書展示会の意義

4. 検証: 実施した図書展示会の分析

Problem Based 研修 💆 🐠





2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

## 1.問題:図書の貸出が減少

- 図書の貸出冊数・人数減少 コロナ禍以前から減少していたが、コロナ禍以降、更に減少している。
- 専門書の貸出冊数減少

就活向け図書・ブラウジング図書・学習用マンガなど、学習目的の図書を揃え た様々な別置コーナーを設けており、別置コーナーの貸出冊数は増加している。 ただし、専門書の貸出冊数は減少してきている。

#### • 入館者数の微増

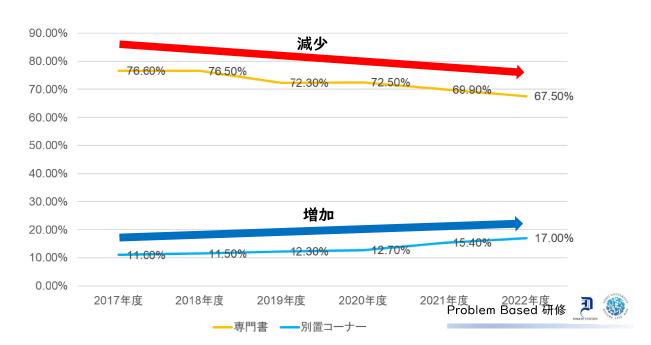
入館者数もコロナ禍以前より減少しており、コロナ禍以降、更に減少した。ただ し、2022年度は2021年度から微増であり、入館者数は右肩下がりではない。 貸出以外の利用は右肩下がりではない。 Problem Based 研修 💆 🐝

## 1.図書の貸出冊数の推移

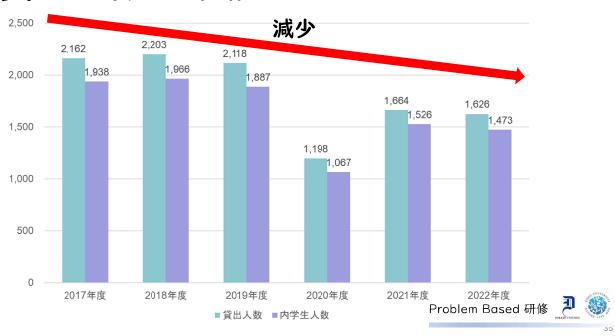


2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

## 1.専門書貸出冊数の推移

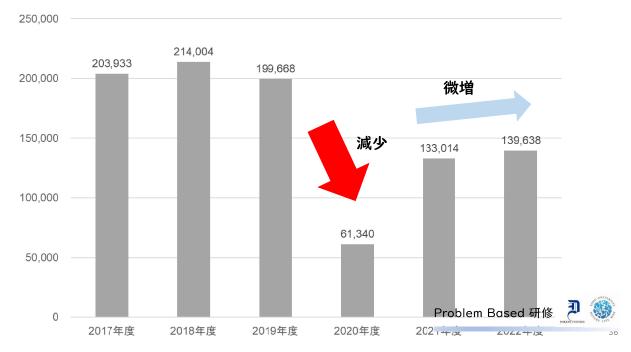


## 1.貸出人数の推移



2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

## 1.入館者数の推移



2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

#### 2. 原因:学生の学習環境の変化

• 授業スタイルの変化

コロナ禍以降、授業のデジタル化が進み、授業の配布資料・参考資料でオンラ イン資料(電子ブックだけでなく、ネット上で参照できる様々な情報含め)が増 加している。一方で図書を参照する機会は減少している。

• モバイルデバイスに慣れた世代

スマホやタブレットなどのモバイルデバイスに慣れた世代が増えており、ネット情 報の検索・閲覧を問題なく行うことができる。

本離れ

コロナ禍以前より、若い世代の「本離れ」が言われており、図書自体に積極的 に関心を持つ学生が減少している。図書に触れる機会が減っている中、図書 の論理的な読み方や楽しみ方を知らない学生が増えている。

Problem Based 研修 🏓





2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

#### 3. 対策: 図書展示会の意義

図書のメリット

図書は、ネット上の情報と比べて、より情報が体系化されており、目次・索引な どで、目的とする情報が探せるよう、工夫されている。また、出版の過程で多くの 人のチェックが入っており、引用・参考文献も充実している。

気づきの手段

学生に対して、メディアセンターに来ると、何か気づきがある、と思わせたい。展 示会は気づきの手段となる。

・図書との出会いの場

学生の人生に影響を与えることもある。展示会を入館者の動線上に設置する事 で、より多くの学生が図書展示に出会うことができる。また、テーマ設定を学生 に親しみのある物とする事で、より目を惹くことができる。

Problem Based 研修 💆 🍪



2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

## 3. 対策:実施する図書展示会

#### • 展示テーマ

2005年以降、これまでに80回近く、様々な開催形式で図書展示会を実施してきて いる。今回は、学生の目によりとまりやすいよう、特に貸出利用が多い「生物系(今 回のフォーカスは"昆虫")」のテーマを設定して実施する。

#### •展示の工夫

面展示しやすい書架の導入、利用者の動線を意識した展示場所の確保、POPや 展示テーマと関連したイラストによるデコレーション、貸出があった展示資料向けの 下敷き設置などの工夫を施し、展示を実施する。

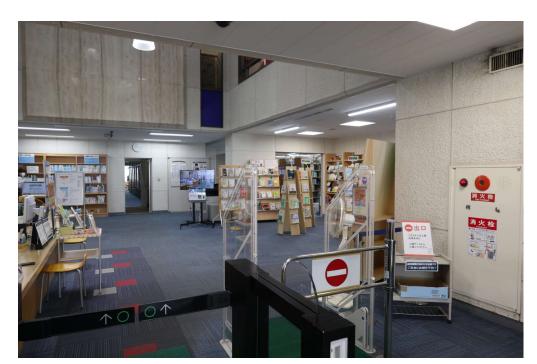
#### • 広報の工夫

より多くの学生が展示会の存在を知ることができる様、SNSや学生が必ず見る教 育ポータル、紙媒体の図書館だよりなどを通じて、展示会を周知する。

Problem Based 研修 💆 🍪







展示会は、入館ゲート(上の写真手前側)の正面で実施しました。

Problem Based 研修





2.サービス再考の取り組み(4)展示会の工夫(東邦大学)

## 4. 検証: 実施した図書展示会の分析

- 立ち止まって展示を見ていた学生がいた。
  - ○期間中11名の利用者が立ち止まって展示を見ていた。
  - ○展示期間は3週間(10月30日~11月18日)
- ・ターゲットとして想定した学生から借りられた。 ○理学部生物学科の学生2名から借りられた(貸出人数は6名)。
- 展示会を通して初めて借りられた図書があった。○2冊、初めて借りられた(展示図書は34冊、貸出冊数は6冊)。



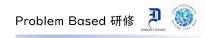
以上, 獨協大学と東邦大学の サービス再考の取り組みを 紹介しました。 3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ

## 私たち職員のスキルアップと 取り組みのまとめ

#### スキルアップ

- 1. サービスの基本的な考え方
- 2. 企画力には発見力が必要
- 3. テクニカルの前に大事なこと

取り組みのまとめ

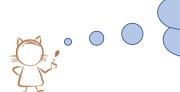


3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ 1.サービスの基本的な考え方

#### サービスの基本的な考え方

私たちの業務はサービス業であり、マーケティング的な考え方(マーケティングとイノベーション)を軸にサービスを行っていく必要があります。

- 1.マーケティング
- 2. イノベーション



ゲうすれば 利用者に喜んでもらえるだろう? どうすれば 利用者に価値を提供できるだろう?



3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ I.サービスの基本的な考え方

#### マーケティング

- ・マーケティングとは「外部からの視点」を意味する。
- ・私たちの視点でサービスを考えるのではなく、利用者の欲求からスタートする。
- ・私たちはどんなサービスをしたいのかではなく、利用者はどんなサービスを求めているのかを問う。

Problem Based 研修 🗾 🏐

3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ I.サービスの基本的な考え方

#### イノベーション

- ・イノベーションとは「現在と未来とのバランス」を意味する。
- ・今がベストだと考えるのではなく,変化する環境のなかに おいて,よりよいサービスを目指していく。
- ・実施しているサービスに PDCAを回し, 目標と現状のあいだに 生まれているギャップを埋めていく。
- ・実施したから終わりなの ではなく, むしろスタートであり, 目標達成の精度を上げていくこと。

3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ 2. 企画力には発見力が必要

#### 企画力には発見力が必要

企画するには気づきが必要です。気づきにはものが見える力が必要です。ものが見えるためには発見力が必要です。

発見力を高めるための方法

- ・メモする習慣を身につける
- ・視点を変える
- ·素直になる とくに,人の話が聞けるようになる



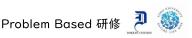
3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ 2. 企画力には発見力が必要

#### 企画力

企画を説明し、理解してもらい、実行に移すためには・・・

企画がとおる説明ができる 企画がとおる資料作成ができる

- ·なぜ、その企画をやりたいのか
- 実行しないとどうなるのか
- -すでに問題が起きている,これから 問題が起きる
- ・どんな実施方法があるのか
- ・実施するメリットとデメリット
- 継続性はあるか
- -組織として取り組むのか、それとも熱心な職員が取り組むのか



3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ 3. テクニカルの前に大事なこと

#### テクニカルの前に大事なこと

- ・テクニカルよりも大事なのは,利用者との信頼関係です。
- ・日頃から利用者とコミュニケーションができる 雰囲気づくりが大切です。
- ·例えば·・・



- ・入館時,カウンターでの挨拶
- フロアへの目配り
- ・利用者が声をかけやすい雰囲気にしておく
- ・目があえば,声がかかる前に こちらから「何かお困りですか?」と

Problem Based 研修 👂 🚳





3. 私たち職員のスキルアップと取り組みのまとめ

#### まとめ

- ・このように、利用統計は右肩下がりの状況が続いており、 コロナ禍以前の状況に戻っていない。
- ・これからも利用者の図書館離れが広がると判断し、 利用者サービスの在り方を再考し,それぞれの取り組みを ●問題 ②原因 ③対策 ④検証 で報告した。
- ・併せて,わたしたち職員のスキルアップが必要なことを認識した。

2023年度研修報告大会 スキルアップ研修

# 和漢古典籍コース

2023.12.15

# 発表内容

- 1. 研修の目的
- 2. 活動報告
- 3. 活動内容のご紹介

## 1. 研修の目的

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典 籍資料について、大学図書館職員として必要 な書誌学の基礎知識・書誌作成の方法を習得 することを目指す

# 2. 活動内容

#### ▷調書の作成・添削

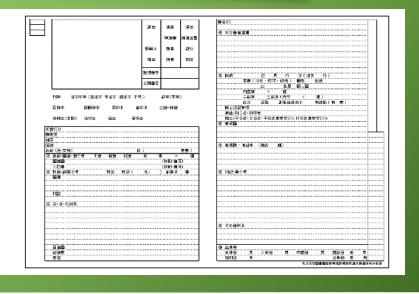
和漢古典籍資料の現物を見ながら調書を作成 し、講師が添削を行う。

#### ▶工具書・データベースの利用方法を学ぶ

和漢古典籍資料の調書をとるために必要な工 具書・データベースの利用方法を学ぶ。

# 3. 活動内容のご紹介

正確な書誌作成方法 を習得するために、 調書をとる演習を 行っています



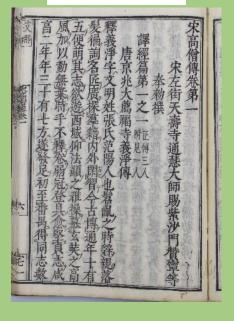
和刻本『宋高僧伝』3点の出版年について

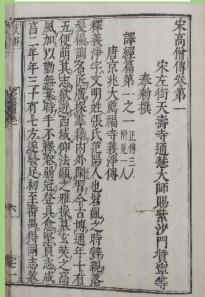
## 巻第一巻頭

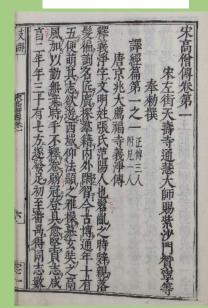
西村版

美濃屋版

無刊記本







## 『宋高僧伝』について

【成立】宋の端拱(たんきょう)元年(西暦988年) 著者は賛寧(さんねい)。

【内容】30巻。梁の高僧伝、唐の続高僧伝に続 くものとして著された。 高僧(徳の高い僧侶)の伝記を集めたもの。 宋の太宗の勅命によって編纂され、 6年を経て完成した。

#### 3点共通の特徴

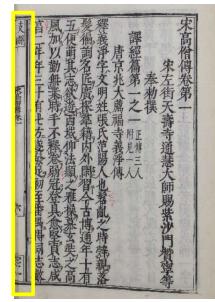
〇巻冊 30巻10冊

〇版式 (=版面の形式)

四周双辺無界 10行20字 版心上部に「支那撰述」 版心下部に「宅・曲・阜」

#### 〇原刊記

各巻の巻末に原刊記あり (落丁部分を除く) 年号はすべて「萬暦辛亥」 万暦辛亥=万暦3(1611) ※万暦は中国明末の年号 版心



原刊記

南京上上人



⇒これらは、嘉興蔵の特徴と一致する。

#### 嘉興蔵・覆刻について

嘉興蔵(かこうぞう)

【成立】明代末(万暦年間)以降に中国江南地方に開版。

【内容】仏教経典の一大叢書(シリーズ)である。

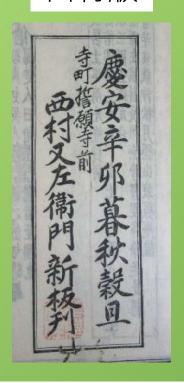
⇒西村版・美濃屋版・無刊記本は、明の嘉興蔵を底本として訓点をつけた和刻本(=日本の版本)。おそらく嘉興蔵の覆刻本と考えられる。

\* 覆刻(ふっこく)

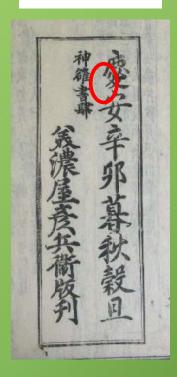
「覆」かぶせるの意で、既版本を底本として、その版式通りに模して版木を作り出版すること。

# 西村版と美濃屋版の比較

## 西村版



## 美濃屋版



慶安辛卯 = 慶安4年(1651) 美濃屋版の左2行は入れ木であ る可能性

#### 《推測》 美濃屋版より西村版が古い

入れ木(鏡像)の例

非公開

板木番号:F0345 板木Group番号:F0001 資料名: 煎茶要覧 出版年月:嘉永4(1851) 年 秋 板木備考:嘉永四年亥秋山城屋佐兵衛刊 (入木一部はずれ)

画像は

画像は ARC板木ポータルデータベース https://www.dhjac.net/db/hangi/F0345/default/0/

#### 推測を検証する

文字の欠け

西村版

美濃屋版

西村版

美濃屋版

西村版

美濃屋版













巻7 8丁裏 9行目

巻16 12丁表 5行目

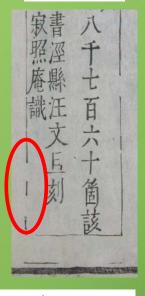
巻20 13丁裏 10行目

#### 原刊記の枠線部分の割れ

西村版

美濃屋版





巻8 23丁裏

西村版 照書厘一 庵應 萬 識天 百 刻

美濃屋版 照書里一 萬 庵應

巻17 30丁表

## ≪ここまででわかること≫

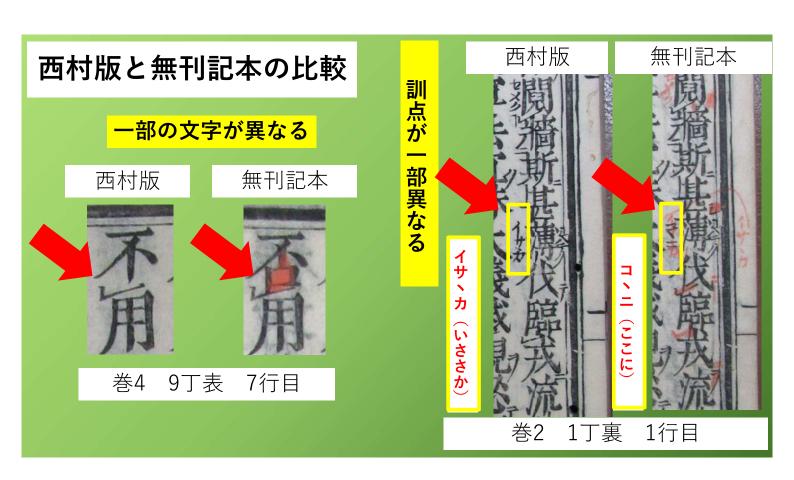
- ・西村版と美濃屋版は同じ版木によって刷られた もの。
- ・美濃屋彦兵衛は慶安4年(1651)以降に版木を 入手して印刷した。

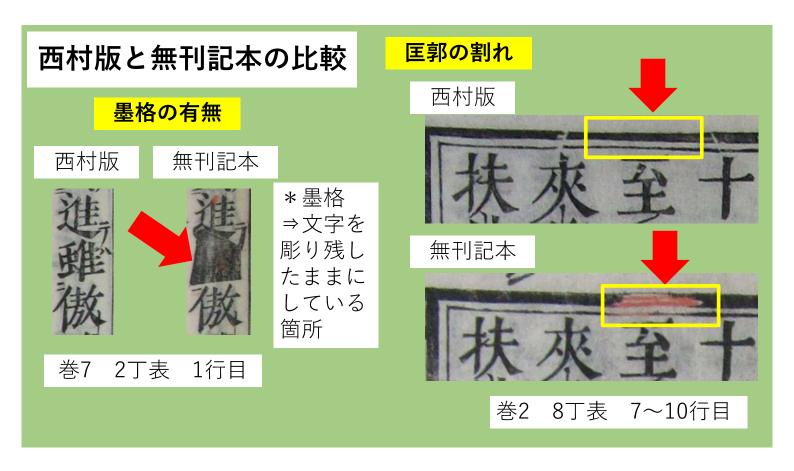
・西村又左衛門が慶安4年に版木を作成したかは保留。

 古
 新

 西村版
 美濃屋版

西村版と無刊記本の比較





## ≪ここまででわかること≫

#### 共通の傷

西村版

無刊記本





- 西村版と無刊記本は同一の版木を刷ったもの。
- ・無刊記本の版木の訓点 や文字などを修正して 刷ったものが西村版。

#### ≪ここまででわかること≫

・西村版は割れを〈入れ木〉によって修正した上で印刷していると推測される。

西村版

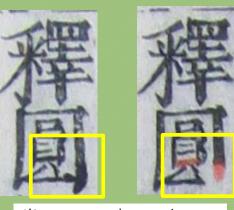


匡郭に切れ目がある部分が入れ木の箇所

## 文字の割れの修正

西村版

無刊記本



巻4 7丁裏 8行目

西村版

無刊記本





巻4 7丁表 5行目

# まとめ

古

新

## 無刊記本

西村版

美濃屋版

出版地:不明 出版者:不明

出版年: [万暦39(1611)以降

慶安4(1651)以前刊]

出版地:寺町[京都] 出版者:西村又左衛門

出版年:慶安4[1651][印]

出版地:神雒[京都] 出版者:美濃屋彥兵衞

出版年:[慶安4(1651)以降印]

「刊」…版木を製作し、最初に印刷・出版された年 「印」…」

「印」…版本が実際に印刷された年

# 参考文献

≪使用した『宋高僧伝』の画像≫

立正大学古書資料館所蔵

無刊記本: A76/100 宋高僧傳 30巻10冊
西村版: A76/13 宋高僧傳 30巻10冊
美濃屋版: A76/12 宋高僧傳 30巻10冊

≪使用した版木の画像≫

板木番号:F0345 板木Group番号:F0001

資料名: 煎茶要覧 出版年月: 嘉永4(1851) 年 秋

板木備考:嘉永四年亥秋山城屋佐兵衛刊(入木一部はずれ)

ARC板木ポータルデータベース

https://www.dh-jac.net/db/hangi/F0345/default/0/ (2023-12-07)

# 参考文献

- 『大蔵経全解説大事典』/鎌田茂雄[ほか]編 雄山閣出版, 1998
- 『近世書林板元總覽』 / 井上隆明著 青裳堂書店, 1981
- 『書誌学入門:古典籍を見る・知る・読む』/堀川貴司著 勉誠出版, 2010
- 『日本古典籍書誌学辞典』 / 井上宗雄 [ほか] 編著 岩波書店, 1999
- 『和書のさまざま』 / 人間文化研究機構国文学研究資料館編和泉書院, 2015
- 『日本国語大辞典』第4巻/日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館国語辞典編集部編 小学館, 2001
- 『東京大学総合図書館所蔵嘉興大蔵経:目録と研究 Ⅱ 研究編』 / 横手裕 [ほか] 監 東京大学大学院人文社会系研究科, 2010
- 『【講義7】 版本について 刊記・奥付の読み方を中心に』 /木越 俊介日本古典 籍講習会テキスト, 16, p. 1-13, 2019

# 研修を受けての感想

- ・初心者でも一から和漢古典籍について学ぶことがで きる
- ただ古典籍に関する講義を聞くのではなく、解明していく過程を多く体験できて有意義だった
- ・自館で作成に悩む資料などを相談できて助かった

和漢古典籍にご興味のある方は受講をお勧めします!



# スキルアップ研修RDA3Rコース 2023年度 研修報告

発表者

RDA3Rコースの紹介: 野川 夢美 (桐朋学園大学) RDA3Rを関連図で説明:川本 真梨子 (慶應義塾大学)

2023年12月15日(金)

私立大学図書館協会東地区研究部研修報告大会



# RDA3Rコースの紹介

- 1. 研修形式
- 2.参加者と講師
- 3. RDA3Rコースの目標

1. 研修形式

# ハイブリッド形式

オンデマンド YouTube



オンライン 年4回

# 1. オンデマンド YouTube

#### テキスト



IFLA図書館参照モデル: 書誌情報 の概念モデル / Pat Riva, Patrick Le Bœuf, Maja Žumer著; 和中幹雄,古川肇訳者代表.



# 1. オンライン 年4回

オンライン	開催日	事前視聴のオンデマンド教材
第1回	5月26日(金)	
第2回	7月21日(金)	第1回・第2回 <b>(RDA3Rの世界)</b>
第3回	9月8日(金)	第3回 <b>(世界のRDA3R 前編)</b>
第4回	11月10日(金)	第4回 <b>(世界のRDA3R 後編)</b>

## 2. 参加者と講師

講師: 高野 真理子(NPO法人大学図書館支援機構)

	参加	加者氏名	所属大学名
1	秋山	英俊	城西国際大学水田記念図書館
2	大部	今日子	常磐大学情報メディアセンター
3	川本	真梨子	慶應義塾大学メディアセンター本部
4	栗山	美和	玉川大学教育学術情報図書館
5	塚本	浩美	国際医療福祉大学成田キャンパス図書館
6	野川	夢美	桐朋学園大学附属図書館
7	森谷	優香	日本体育大学図書館課
8	矢野	大介	女子栄養大学大学図書館課
9	吉田	直輝	国立音楽大学図書館事務室

#### 3. RDA3R コースの目標

# 「RDA3Rとは何か」 自分の言葉で説明



実体・関連モデルで ユーザタスクを捉えなおす

#### 実体・関連モデル

- ▶ 「実体 entity」「関連 relationship」「属性attribute」の 3つの要素を用いて概念化したデータモデル
- ▶ 実体・関連モデルを図で表現したものが関連図



RDAの前提はWebの手法RDF(Resource Description Framework) 書誌情報をデータモデルとして関連図で表現

#### ユーザタスク

- ▶ エンドユーザが情報ニーズを満たすための検索プロセス
- ▶ 発見、識別、選択、入手、探索の5つ(『IFLA図書館参照モデル』, 2017年)

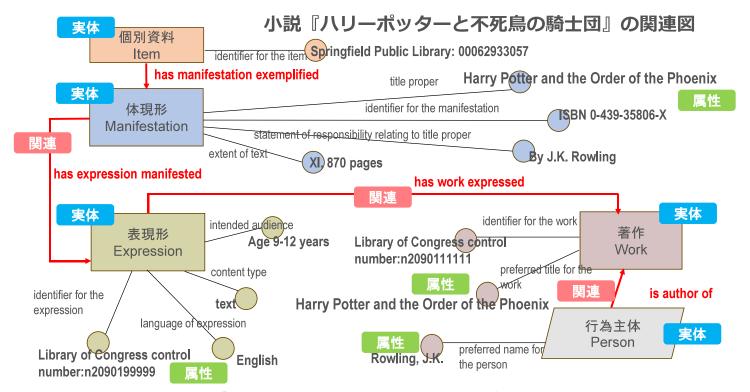
#### 3. RDA3R コースの目標



# 「RDA3Rとは何か」 自分の言葉で説明



各自が関連図で説明



RDA Toolkit「Full Record Examples of RDA Cataloging」より一部抜粋(2023年12月2日) https://www.rdatoolkit.org/sites/default/files/rsc\_diagram\_examples\_primary\_relationships\_novel\_april\_2016.pdf



# RDA3Rを関連図で説明

- 4. 対象のリソース
- 5. 関連図を描いてみた
- 6. まとめ

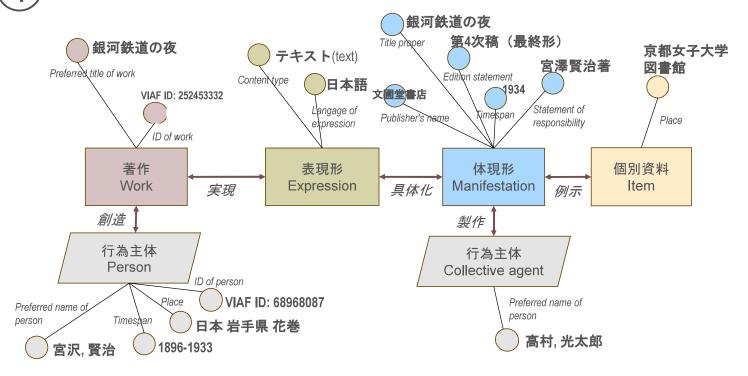
#### 4. 対象の リソース

## 『銀河鉄道の夜』の さまざまなリソース

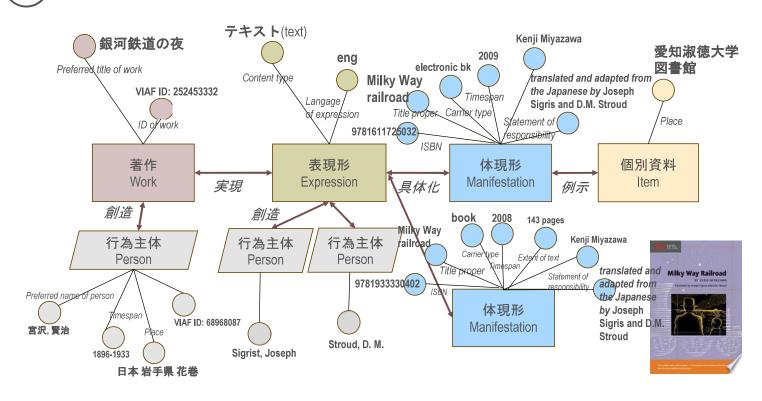
	氏名		関連図の対象
1	秋山 英佬	俊	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』文圃堂版全集, 1934年(初出)
2	森谷優都	香	Kenji Miyazawa "Milky Way railroad" EBSCO, c2009(英語翻訳/機械可読)
3	矢野 大介	介	銀河鉄道の夜:長編アニメーション映画, ますむら・ひろし原作マンガ, 1985年
4	栗山 美和	和	影絵劇:銀河鉄道の夜 藤城清治影絵・演出 2007年(ビデオディスク)
5	野川夢美	美	銀河鉄道の夜:混声合唱とピアノのための音画, 2012年(印刷楽譜スコア)
6	吉田直路	暉	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』校本宮沢賢治全集 第10巻 (童話4) 筑摩書房房 1974年
7	塚本 浩美	<b>∓</b> ∣	文学作品における文体構造の可視化宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の解析. 『可視化情報学 会誌』掲載の論文.
8	大部 今日	日子	雑誌『可視化情報学会誌』のタイトル変遷
9	川本 真季	梨子	二人の宮沢賢治とNomenとしての『銀河鉄道の夜』

書誌的宇宙 宮澤賢治没後90年

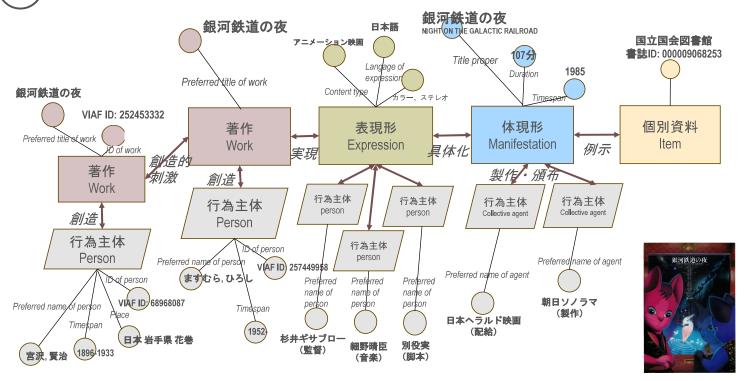
(1) 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』, 1934年(初出)



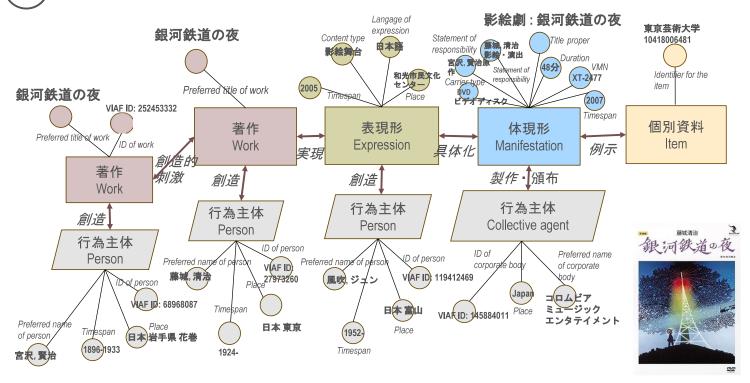
(2)Kenji Miyazawa "Milky Way railroad" EBSCO, c2009(英語翻訳/機械可読)



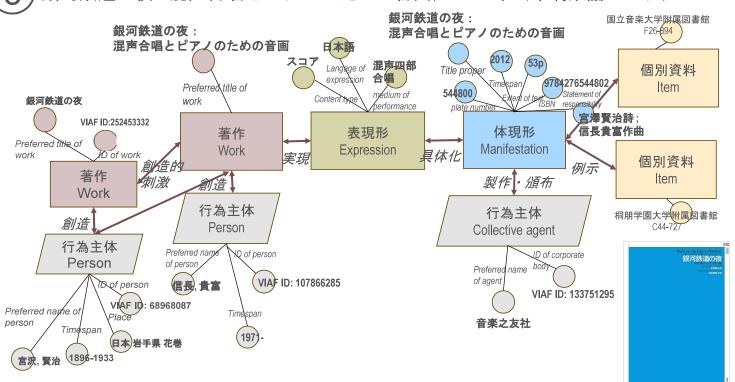
(3)銀河鉄道の夜:長編アニメーション映画,ますむら・ひろし原作マンガ、1985年



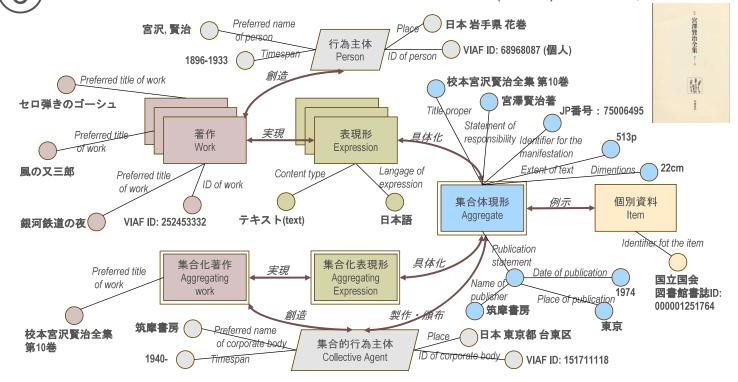
(4) 影絵劇:銀河鉄道の夜藤城清治影絵・演出 2007年(ビデオディスク)

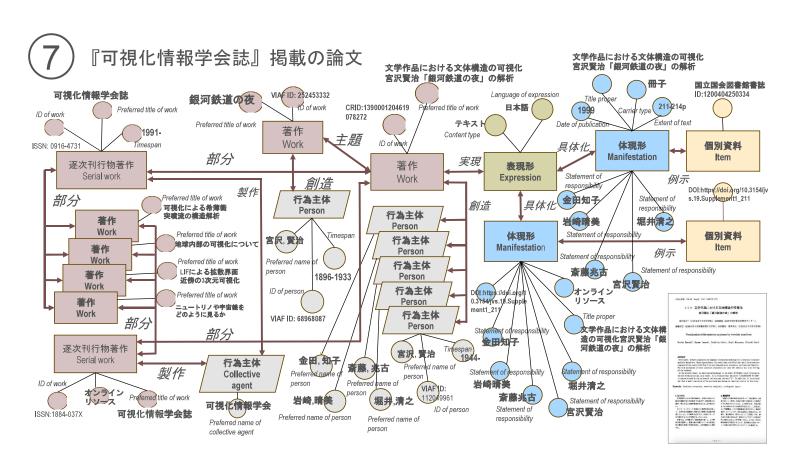


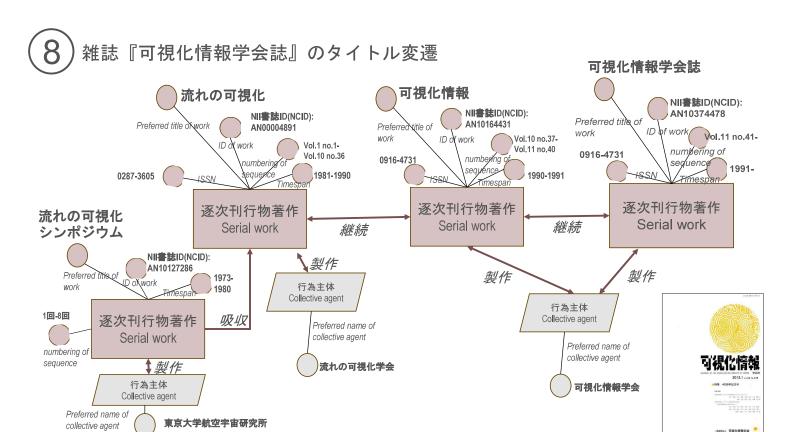
 $ig(oldsymbol{5}ig)$ 銀河鉄道の夜: 混声合唱とピアノのための音画,2012年(印刷楽譜スコア)

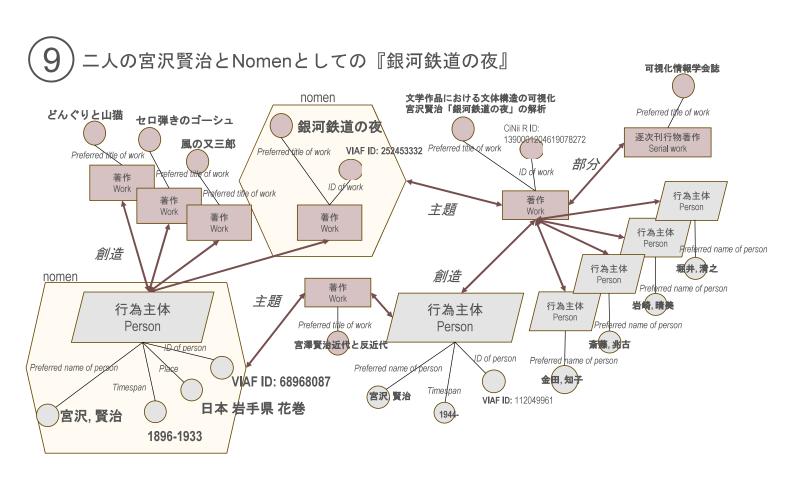


) 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』校本宮沢賢治全集 第10巻 (童話4) 筑摩書房, 1974年









#### 6. まとめ

関連図の作成を通して

見えてきたこと

## $AACR2 \rightarrow RDA$

- ➤ インターネット社会に開かれたものへ
- ▶ 論文やデータ単位
- ▶ デジタル文献・さまざまな媒体に対応
- ▶ 実体・関連モデル
- ▶ 利用者志向

#### 6. まとめ

# IBRDA → RDA3R

- ➤ IFLA LRM (図書館参照モデル) に準拠
- ▶ 新たな概念の追加
  - 「逐次刊行物」「集合体」の考え方
  - ユーザタスク「探索」
  - Nomen ∠ res (things)
- > 実体の精査



#### 6. まとめ

# RDA3Rとは何か

- ➤ RDA Toolkitの再構築
- ▶ 国際標準、多言語対応
- ▶ 「目録規則」とは少し違う
  - オプション、ポリシーステートメント
    - → 作成機関が必要なものを選択する 「標準設計」

関連図の作成を通して 見えてきたこと

# ご清聴ありがとうございました

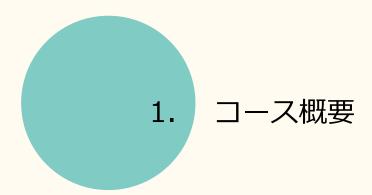
# スキルアップ研修 NCR2018コース

発表者: 盛岡大学図書館 千葉 麻理奈

文化学園大学図書館 佐藤 友治

#### 内容

- 1. コース概要
- 2. NCR2018とは
- 3. 注目ポイント
- 4. NCR2018でのデータ記述



#### 1. コース概要

■ 内 容: 日本目録規則2018年版(NCR2018)について学ぶ

■ 講 師: 岡田 智佳子氏(大学図書館支援機構、武蔵野大学・聖徳大学非常勤講師)

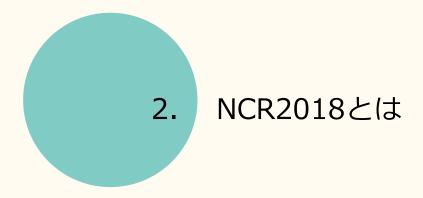
■ 受講者: 13名

#### 参考図書

- 木村麻衣子編著『日本目録規則2018年版』日本図書館協会,2022.
- ・ 小西和信, 田窪直規編著;飯野勝則[ほか]『情報資源組織演習 三訂版』樹村房,2021.
- ・ 蟹瀬智弘『NCR2018の要点解説 資源の記述のための目録規則』樹村房,2023.

# 1. コース概要

	日程	テーマ	内容
1	6/15	NCR2018の基礎知識① 「FRBRモデル」NCR2018を学ぶ	・NCR2018をめぐる状況 ・FRBR概念モデル
2	6/22	NCR2018の基礎知識② NCR2018の特徴-NCR1987年版との違いを中心に	・NCR2018改訂の特徴
3	7/6	NCR2018を知る① 書誌の視点から 体現形・表現形の記録	・記述の作成について ・体現形・表現形の属性の記録
4	8/3	NCR2018を知る② 典拠の視点から 著作及び第2グループ	・著作の属性の記録 ・個人・団体の属性の記録
5	11/2	NCR2018を知る③ 関連	・アクセス・ポイントについて ・「関連」について



#### NCR2018とは

#### 正式名称「日本目録規則2018年版 |

Nippon Cataloging Rules 2018 edition の略称

旧版(1987年版)からおよそ30年ぶりの 抜本的な改訂

- FRBRの概念モデルを基盤とする
- 『日本目録規則2018』
  - 冊子体:2018年12月刊行
  - Web版: 2019年無料公開

更新事項の反映は PDF版 のみ

冊子版 の情報は すでに古い

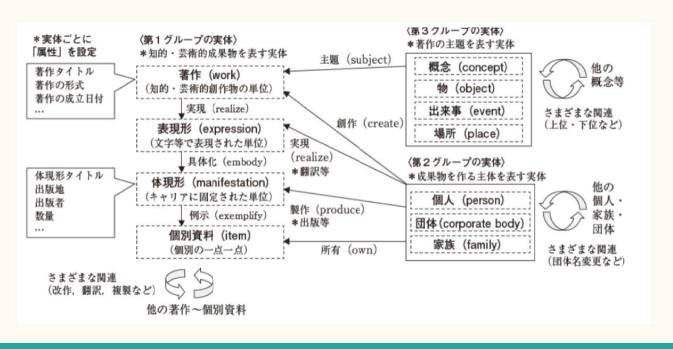


参照する場合は

最新の Web版 が ◎

【出典】 田窪直規編著;飯野勝則[ほか]『情報資源組織論』三訂,樹村房,2020,p.30.

#### FRBRの概念モデルとは



## 第1グループの実体 : 著作・表現形・体現形・個別資料

例)星の王子さま / サン=テグジュペリ [著];管啓次郎訳. -- 東京:角川書店;東京:角川 グループパブリッシング (発売), 2011.6



Saint-Exupéry, Antoine de 『Le Petit Prince』 1943.



著作

Antoine de Saint-Exupéryが書いた " Le Petit Prince"という作品

表現形

管啓次郎による" Le Petit Prince"の日本語訳

体現形

角川書店から「角川文庫」の1冊として 刊行された管啓次郎による日本語訳「星 の王子さま」

個別資料

大学図書館が所蔵する角川文庫の管啓 次郎による日本語訳「星の王子さま」 の1冊



- 第9章 概念(保留)
- 第10章 物 (保留)
- 第11章 出来事 (保留)
- (保留)にはリンクなし
- 作成予定なし

第1郎 総説

 第2郎 属性

 ( 属性の記録>

 セクション1 属性総則
 第1章 属性総則
 セクション2 著作、表現形、体現形、個別資料

 第2章 体現形

 第2章 体現形
 #2.3 (版表示) ~#2.4 (順序表示) (2019.7.5更新)
 #2.5 (出版表示) ~#2.9 (著作権日付) (2019.7.5更新)
 #2.10 (シリーズ表示) ~#2.13 (刊行頻度)
 #2.14~#2.33 (世元基金)
 第3章 著現形(2023.3.1更新)

 第5章 表現形(2022.1.28更新)

セクション3個人・家族・団体第6章個人(2022.1.28更新)

マクション4 概念、物、出来事、場所 ・ 第9章 概念(保留) ・ 第10章 物(保留) ・ 第11章 出来事(保留) ・ 第12章 場所

第7章 家族

■ 第8章 団体

PDFにリンク

#### NCR2018への対応

国立国会図書館(済



2021年1月から対応、JAPAN/MARC 提供開始。

■ 図書館流通センター(TRC) (済



2022年1月から対応、TRC MARC/Tタイプ 提供開始。

■ **国立情報学研究所(NII)** NACSIS-CAT 2024年度以降に適用

NCR2018適用細則、コーディング・マニュアル、目録情報の基準の改訂版作成中。

■司書課程(済



「情報資源組織論」「同演習」とも対応。2021年度から履修開始。



#### 3. 注目ポイント

- ① 改訂のポイント
- ② データ要素の追加
- 3 コア・エレメント(必須データ)の拡充
- 4 情報源の扱い
- ⑤ 転記の原則の徹底

#### ① 改訂のポイント

① FRBRを基盤とする目録規則 : 利用者目線のモデル

② RDA(旧版)との相互運用性 : 国際流通を意識、用語も一新

③ 日本独自の事情への対応 : 出版慣行(奥付)、日本語の特性(読み)

④ 自由度の高さ : 豊富な別法・任意規定

● 図書館の裁量が保証されている

取り方が統一されない可能性がある

#### 2 データ要素の追加



機器種別:機器不用

キャリア種別:冊子

表現種別:テキスト

#### 資料種別 /機器種別、キャリア種別、表現種別

- 資料の多様化に対応
- 物理的側面、内容的側面を整理して記録が可能に

著者標目 Carroll, Lewis, 1832-1898<mark>,</mark> 著者 Riddell, Chris, 1962-, 挿絵者 長友, 恵子 訳者

NCR2018の中から目録作成者の 判断で選択して付与する

#### 関連指示子

典拠形アクセス・ポイント(統一標目)に付与

- 「関連」の記録を推奨。
- 典拠形アクセス・ポイントを通じて、 関連する「実体」をできるようにする 役割が期待される。

国立国会図書館「日本目録規則2018版のポイント」 (別紙1) 主なデータ要素等の情報源の変化(図書) https://www.ndl.go.jp/jp/library/training/remote/pdf/shiryo\_remote\_NCR2018\_bessi01.pdf

## ③ コア・エレメント(必須データ)の拡充

#### [NCR1987]

2.0.5(図書)

区切り記号で 要素を区別

本タイトル

責任表示(最初の1つ)

版表示

出版者または頒布者等

出版年または頒布年等

本シリーズ名

ページ数

#### [NCR2018]

#### 第0章 付表(図書の場合)

本タイトル

本タイトルに関係する責任表示(最初の1つ)

版次、**付加的版次** 

出版地(最初の1つ)

出版者(最初の1つ)

出版日付

シリーズの本タイトル、シリーズ内番号、

サブシリーズの本タイトル、

サブシリーズ内番号

キャリア種別

数量(資料が完結または総数が判明)

体現形の識別子(ISBNなど国際標準を優先)

#### 4 情報源の扱い

#### [NCR1987]

原則として **対等** 2.0.3(図書) (四大情報源)

次の1~4の順に選定

- 1. 標題紙、奥付、背、表紙
- 2. その図書本体の1以外
- 3. カバー、箱等
- 4. その図書以外の情報源
- ※標題紙がない場合、最も詳しい情報源を 標題紙の代わりに
- ※タイトル、責任表示、出版・頒布等は、 1以外の場合、補記[]

#### [NCR2018]

#2.0.2(図書の場合)

**タイトル・ページ至上主義** (優先情報源)

差 がついた!!

次の1~4の順に選定

- 1. タイトル・ページ(旧:標題紙)
- 2.1が不十分または1がない
  - a. 奥付
  - b. 背・表紙または**カバー**
  - c. キャプション
- 3.1・2にタイトルが表示されていない
  - a. 資料自体の他の情報源 (刊行時の容器は資料自体の一部)
- 4. 資料自体にタイトルが表示されていない
  - a. 資料外の情報源 ※4の場合、補記[]などで明示

【参照】

国立国会図書館 収集書誌部収集・書誌調整課 「『日本目録規則2018』 (NCR2018)の普及に向けて」(図書館総合展, 2022) https://www.ndl.go.jp/jp/data/ncr/lf2020\_handout1.pdf

#### 5 転記の原則の徹底

原則、情報源の表示どおりに転記する 図書館も利用者も 現物と書誌データを同定しやすくなる

#### 責任表示の記録

#### Medical Explorer Naoko Ono Makiko Ishida Dasilva

タイトル・ページ (標題紙) SEIBIDO

奥付

#### Medical Explorer

2016年2月発行 著者 大野直子 ダシルヴァ石田牧子 発行所 株式会社成美堂

タイトルページにローマ字表記しかない ため、そのままの表記を採用。

#### NCR1987改訂3版

責任表示 大野直子, ダシルヴァ石田牧子 著 著者標目 大野, 直子

著者標目 大野, 直子 著者標目 ダシルヴァ石田, 牧子

- ●情報源のうち、最も適切な表示を選んで記録 (この場合、奥付を採用)
- ●著者等の後に、著作の種類を示す語 (著、共著など)を付したものを記録

#### NCR2018

責任表示 Naoko Ono, Makiko Ishida Dasilva 創作者 著者: 大野, 直子

創作者 著者: ダシルヴァ石田, 牧子

- ●優先情報源の表示を原則、転記●著者等の名称、役割を示す語句の 記録の順序を統制しない
- ●役割を示す語句が無くても補記しない

#### **曾国立国会図書館**

13



## NCR2018でのデータ記述例

JLA 図書館実践シリーズ・・・・・・47
『日本目録規則
2018年版』入門

木村麻衣子編著
日本図書館協会目録委員会監修

表紙

JIA 図書館実践シリーズ・・・・・・47 『日本目録規則 2018年版』 入門

日本図書館協会目録委員会監修

日本図書館協会

An introduction to Nippon Cataloging Rules, 2018 edition (JLA Moncgraph Series for Library Practitioners; 47)

> ◆ ILA原開館職業シリーズ 47 『日本日縁規則 2018年版』 入門 2022年1月15日 初阪南川明年70 定価: 本林 1600円 (税別) 陽南者: 木村麻女子 監督: 日本河津都会 日接要自会 発行者: 2品相団法人 日本河津部協会 デザイン: 笠市公子 温明係: 海栗河県本会社 Pitted の 300円 10月20日 18月2日 18日 18月2日 1

タイトル・ページ

## 体現形の属性の記録

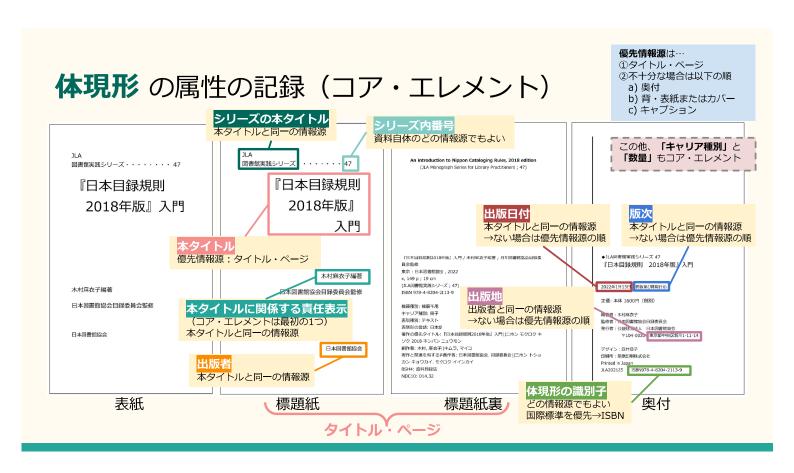
※NCR2018ではフォーマットは規定されていないため、講義内で使用した演習用のフォーマットを使用 ※記述は本則による(この後も同様)

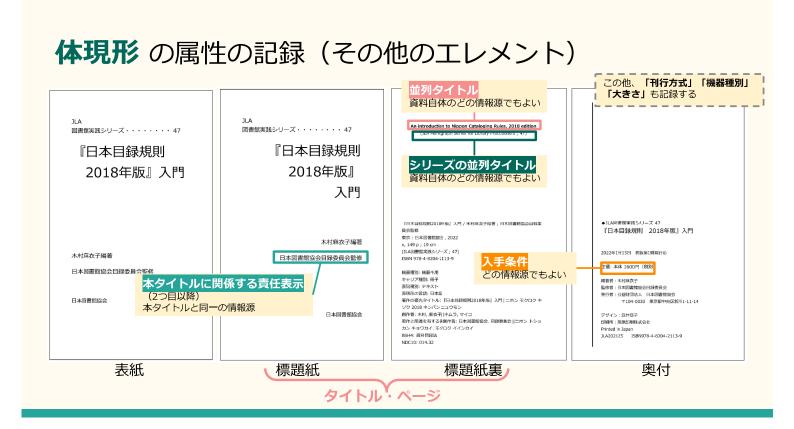
実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	值	NCR2018 条項番号
体現形 (属性)	タイトル	本タイトル	0		#2.1.1
体現形 (属性)	タイトル	並列タイトル			#2.1.2
体現形(属性)	責任表示	本タイトルに関係する 責任表示	0		#2.2.1
体現形 (属性)	版表示	版次	0		#2.3.1
体現形 (属性)	出版表示	出版地	0		#2.5.1
体現形 (属性)	出版表示	出版者	0		#2.5.3
体現形 (属性)	出版表示	出版日付	0		#2.5.5

つづく

## 体現形の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値	NCR2018 条項番号
体現形 (属性)	シリーズ表示	シリーズの本タイトル	0		#2.10.1
体現形 (属性)	シリーズ表示	シリーズの並列タイトル			#2.10.2
体現形 (属性)	シリーズ表示	シリーズ内番号	0		#2.10.8
体現形 (属性)	刊行方式				#2.12
体現形 (属性)	機器種別				#2.15
体現形 (属性)	キャリア種別		0		#2.16
体現形 (属性)	数量		0		#2.17.1
体現形 (属性)	大きさ				#2.18
体現形 (属性)	体現形の識別子		0		#2.34
体現形 (属性)	入手条件				#2.35





## 体現形 の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値	NCR2018 条項番号
体現形 (属性)	タイトル	本タイトル	0	『日本目録規則2018年版』入門	#2.1.1
体現形(属性)	タイトル	並列タイトル		An introduction to Nippon cataloging rules, 2018 edition	#2.1.2
体現形 (属性)	責任表示	本タイトルに関係する 責任表示	0	木村麻衣子編著	#2.2.1
体現形 (属性)	責任表示	本タイトルに関係する 責任表示		日本図書館協会目録委員会監修	#2.2.1
体現形 (属性)	版表示	版次	0	初版	#2.3.1
体現形 (属性)	出版表示	出版地	0	東京	#2.5.1
体現形(属性)	出版表示	出版者	0	日本図書館協会	#2.5.3
体現形 (属性)	出版表示	出版日付	0	2022.1.15	#2.5.5

## 体現形 の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント		値	NCR2018 条項番号
体現形 (属性)	シリーズ表示	シリーズの本タイトル	0	JLA図書館実施	践シリーズ	#2.10.1
体現形(属性)	シリーズ表示	シリーズの並列タイトル		JLA monogra practitioners	aph series for library	#2.10.2
体現形 (属性)	シリーズ表示	シリーズ内番号	0	47	表2.12.3から選択	#2.10.8
体現形 (属性)	刊行方式			単巻資料	秋2.12.3/3 少层水	#2.12
体現形 (属性)	機器種別			機器不用	表2.15.0.2から選択	#2.15
体現形 (属性)	キャリア種別		0	冊子	表2.16.0.2から選択	#2.16
体現形 (属性)	数量		0	x, 149p	衣2.10.0.2万万度八	#2.17.1
体現形 (属性)	大きさ			19cm		#2.18
体現形 (属性)	体現形の識別子		0	ISBN: 978-4	1-8204-2113-9	#2.34
体現形 (属性)	体現形の識別子			全国書誌番号	: 23649958	#2.34
体現形 (属性)	体現形の識別子			体現形ID: M	000001 ※仮の番号	#2.34
体現形(属性)	入手条件			1600円(税別	到)	#2.35

## 表現形の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	值	NCR2018 条項番号
表現形 (属性)	表現種別		0		#5.1
表現形(属性)	表現形の日付				#5.2
表現形(属性)	表現形の言語		0		#5.3
表現形(属性)	表現形の識別子		0		#5.5
表現形(属性)	付加的内容				#5.16

## 表現形の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値			NCR2018 条項番号	
表現形(属性)	表現種別		0	テキスト	表5.1.3から選択		#5.1	
表現形(属性)	表現形の日付			2022	表現形に関係する晶 →表現形を具体化す			
表現形(属性)	1	資料の内容を表現する	0	日本語	原則として西暦年を			
表現形(属性)	表現形の識別子	語	0	表現形ID: E	000001 ※仮の番号	<u> </u>	#5.5	
表現形(属性)	付加的内容			索引あり			#5.16	
				5	索引、参考文献表、付	は録など		
	Fig.	全て、どの情報源でもよい						

## 著作 の属性の記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値	NCR2018 条項番号
著作(属性)	著作のタイトル	著作の優先タイトル	0		#4.1
著作(属性)	著作のタイトル	著作の異形タイトル			#4.2
著作 (属性)	著作の日付		(識別に必要な場合)		#4.4
著作(属性)	著作の識別子		0		#4.9

## 著作 の属性の記録

一般によく知られているタイトル 読みを記録

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント		値	NCR2018 条項番号
著作(属性)	著作のタイトル	著作の優先タイトル	0		現則2018年版』入門  二ホン ソク 2018ネンバン ニュウ	#4.1
著作(属性)	著作のタイトル	著作の異形タイトル			An introduction to Nippon cataloging rules, 2018 edition	
著作(属性)	著作の日付		(識別に必 要な埋	2022	優先タイトルとして選択した	ふかったタイ
著作 (属性)	著作の識別子		0	著作ID: W0	00001 ※仮の番号	#4.9

著作に関係する最も早い日付 →特定できない場合は、その体現形について 知られる最も早い日付 原則として西暦年をアラビア数字で記録

上記全て、どの情報源でもよい

# 個人・団体 の属性の記録

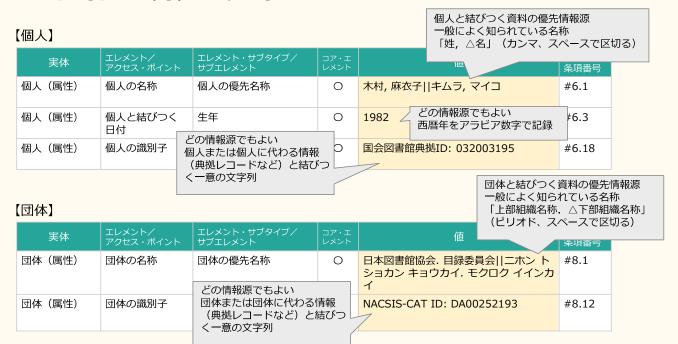
#### 【個人】

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値	NCR2018 条項番号
個人(属性)	個人の名称	個人の優先名称	0		#6.1
個人 (属性)	個人と結びつく 日付	生年	0		#6.3
個人(属性)	個人の識別子		0		#6.18

#### 【団体】

実体	エレメント/ アクセス・ポイント	エレメント・サブタイプ/ サブエレメント	コア・エ レメント	値	NCR2018 条項番号
団体(属性)	団体の名称	団体の優先名称	0		#8.1
団体 (属性)	団体の識別子		0		#8.12

# 個人・団体 の属性の記録



## NACSIS-CATでは…

※書誌データの 一部のみ、「NCR2018適用細則案」に基づいて 仮作成

https://contents.nii.ac.jp/korekara/about/sw\_wg/pc202202

GMD: SMD: YEAR:2022 CNTRY:ja TTLL:jpn TXTL:jpn ORGL:

今までと同じ #2.30.0.4

ハイフンは記録しなくてよい

ISSN: NBN:JP23649958 LCCN: NDLCN: REPRO: GPON: OTHN:

VOL: ISBN: 9784820421139 PRICE: 1600円 (税別) XISBN:

TR: 『日本目録規則2018年版』入門 / 木村麻衣子編著 ; 日本図書館協会目録委員会監修 | |ニホン モクロク キソク

2018ネンバン ニュウモン

ED:

#2.3.1.2 任意省略

初版は記録しない

が変わる!?

別を注記に記録

刊行方式、表現種別、

機器種別、キャリア種

PUB: 東京:日本図書館協会,2022.1 <

今までと同じ #2.5.5.2 任意省略 データ作成機関が定めた詳細度で日付を記録

PHYS: x, 149p; 19cm VT: OH: An introduction to Nippon cataloging rules, 2018 edition

NOTE: 刊行方式:単巻資料

NOTE: 表現種別:テキスト, 機器種別:機器不用, キャリア種別:冊子

NOTE: 索引あり

PTBL: JLA図書館実践シリーズ || JLA トショカン ジッセン シリーズ <BA68506027> 47// a

AL: 木村, 麻衣子 (1982-) || キムラ, マイコ <DA19841316> 著者

AL: 日本図書館協会目録委員会 || ニホン トショカン キョウカイ モクロク イインカイ <DA00252193> 監修者

ここが変わる!?

関連指示子を付加



# NACSIS-CAT 今後の動向

システムワークフロー検討作業部会2023年度活動計画

資料 No. 2-1-2

年度		3023						2026~(次々リプレイス)
半期			I		II	Ш	IV	
N	ス同	紙						
1	テ利ム用	電子						
I	統見合発	CiNii Research			曲圳データ:	芝佐・実用形の概念を治・	<del>h</del> п	
	戸	書誌データ			典拠データ:著作・表現形の概念を追加       ・MARC2116         一般注記 :コンテンツタイプとして体現形の概念を追加       ・MARC2116			・MARC21に変更
	用	典拠データ					_	
	Z	出版者流通データ						
	テム(紙)	目録規則		コーティングマニ 雑誌)を公開	- ユ ƒ ル 収 正条(図書・		NCR2018適用細則、コーディングマニュ アル、目録情報の基準の改訂版を公開 NCR2018適用の説明会	

# 5. まとめ / 感想

# まとめ / 感想

- 講義・演習をとおして、要点の理解、また実際に書誌を作成する際のイメージが持てた。
- NII、日図協の事情など具体的な現状を知ることができた。
- 国際標準を目指す目録規則である以上、後退することのないよう書誌作成をしていく 必要性を感じた。
- 各館の事情に合わせたルール決めが可能、という自由度の高さに魅力を感じた。また、これにより現状をそれほど変えない運用にできるとよい。

など

ここで得た知識をそれぞれの職場に持ち帰り、 共有や自館に落とし込んだ運用の検討に繋げていきたい。

# スキルアップ研修 ヘルスサイエンスコース

# 研修報告





青山 麻美(国際医療福祉大学病院図書室) 小山田 翔太(盛岡大学図書館) 中村 委代(新潟医療福祉大学図書館) 船山 澄子(新潟医療福祉大学図書館)

#### 【目標】

本講座では医科学領域の学術情報担当者を対象にEBMをベースにした情報検索知識の習得を目的としています。利用者の目的を正しく理解し、選んで使いこなすためには、医科学系領域の論文やそれに関する学術資料の特性を知る必要があります。

また、データベース検索などで収集した情報の内容確認・情報整理などについてもご希望があれば演習をしながら解説します。

回:日時	内容
第1回:6/26	ライフサイエンス分野における情報収集( EBM を意識した情報収集)
第2回: 7/19	そのほかの情報源(ライフサイエンス分野の情報収集における便利ツール)
第3回: 9/14	「職場で感染対策について情報提供を求められました」あなたはどうしますか?
第4回: 10/3	カウンターで「卒論で $\bigcirc\bigcirc\bigcirc\bigcirc$ について調べたいんですが、どうやって探せばいいですか?」と相談を受けました。あなたはどうしますか? $\angle$ 職場で悩んだ事例を持ち寄り下さい。
第5回: 10/31	「文献 レビューをしたい」と相談を受けました。どういうポイントに気をつけて相談に乗りますか?
第6回:   / 4	何度も同じ文献取り寄せ依頼をしてくる利用者がいます。どのようなフォローができそうですか?

# 私立大学図書館協会2023年度東地区部会研修会スキルアップ研修ヘルスサイエンスコース研修報告

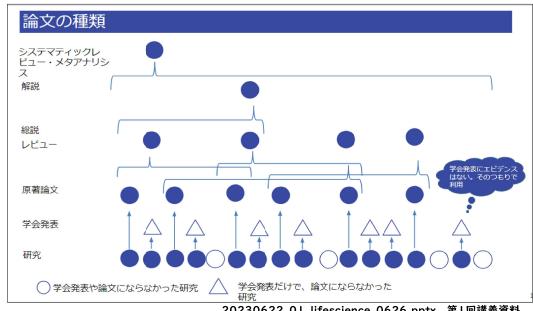
国際医療福祉大学病院図書室 青山 麻美

# 目次

- 1. 受講を通して特に多くの学びを得られた3点
  - (1) 文献の基礎的知識や特性
  - (2) 様々な情報源の種類と特性
  - (3) 検索の進め方
- 2. 課題

#### (1) 文献の基礎的知識や特性

#### ライフサイエンス分野における情報収集(EBMを意識した情報収集)を行うために



20230622\_01\_lifescience\_0626.pptx 第1回講義資料

#### 文献の基礎

- · EBMの誕生
- ・論文の種類
- ・疫学研究の種類

#### 文献検索を行う理由

→既に明らかになってい ることと、明らかに なっていないことを明 6 確にして、選んだ研究 テーマに研究する意義 があるかを確認するた

### (2) 様々な情報源の種類と特性

演習課題:「職場で感染対策について情報提供を求められました」あなたならどうしますか?

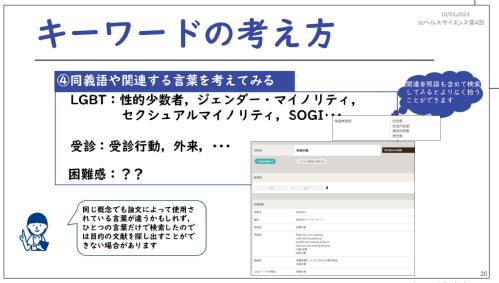
検索時間:15分 沙羽細暦 幺四二周のましん

17771	11-4	演習課題 参照元例のまとめ
	ウェブサイト	特性・情報検索時のポイント等
国内	厚生労働省	サイト内検索ボックスを活用
	文部科学省	大学向けの場合は要確認 突然の更新に備え参照したPDFをダウンロードしておくとよい
	国立感染症研究所	日本全体の傾向、世界の状況、疾病全般の流行傾向、疾病の基礎 知識の確認が可能
	日本感染症学会	医療従事者向け情報(院内感染対策情報)あり
	日本環境感染学会	動画コンテンツも情報として提供可能
	日本プライマリ・ケア連合学会感染症委員会	プライマリ・ケアのための情報あり
国外	CDC:アメリカ疾病予防センター	米国における厚生省のような機関 換気や手洗いの各種ガイドライン紹介 ヨーロッパCDCもある
	WHO:世界保健機関	A L L technical guidance by topic >Health workersにある情報の参考文献をあたると効果的

#### (3) 検索の進め方

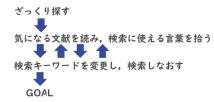
事例:LGBTの方が病院受診時などに受ける

困難感について報告した文献を探している



2023 I 003\_04\_lifescience\_I 003.pptx 第4回講義資料

# 検索の方法



用語の確認、シソーラスブラウ ザの活用を行っても検索結果が 少ないとき

- ・ヒットした文献からキーワードを探 す
- ・参考文献の参照
- ・検索の方向性が合っているかを、一 旦、相談者に確認する
- ・困ってgoogleで検索したとしても 医中誌Webで調べ直す

#### 課題

#### 情報源の種類・特性を把握することの継続

・情報サイトの更新に対応

#### レファレンススキルの向上

- ・レファレンス記録の作成
- ・実践の機会獲得
  - ・広報を工夫する

[方法] レファレンスサービス案内時、具体的な質問例を表記 [対象] 年度途中入職者やメールアドレスを持たない職員へも 届かせる

# ライフサイエンス

レファレンスの実践報告

盛岡大学図書館 小山田 翔太

# レファレンス内容・聞き取り調査

#### <u>質問要旨</u>

高齢者の便秘に対する腹部マッサージの効果について書いてある本が欲しい。

#### インタビュー

本だけをさがしているんですか?:雑誌記事でもいい

事前に調査はされましたか?:県立図書館の書架をブラウジング、イン ターネットで検索

対象は高齢者だけですか?:できれば高齢者、なければそれ以外でもいいいつまでに必要ですか?: | 週間以内

# キーワードの整理

【キーワード】便秘、腹部膨満、排泄ケア、高齢者看護、排泄介助、腹部マッサージ、腹壁マッサージ、高齢者、老年者

#### →仲間はOR最後にANDでつなぐ

高齢者のグループ		便秘のグループ	
高齢者		便秘	
OR	AND	OR	AND
老年者		腹部膨満	
	↓		

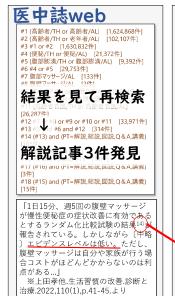
#### 医中誌Webの検索式

(((((便秘/TH or 便秘/AL)) or ((腹部膨満/TH or 腹部膨満/AL))) and (((排泄ケア/TH or 排泄ケア/AL)) or ((高齢者看護/TH or 高齢者看護/AL)) or (排泄介助/AL) or (腹部マッサージ/AL)) and (((高齢者/TH or 高齢者/AL))) or ((高齢者/TH or 老年者/AL))))) and (PT=解説,総説,図説,Q&A,講義)

腹部マッサージのグループ
腹部マッサージ
OR
腹壁マッサージ
OR
排泄ケア
OR
排泄介助
OR
高齢者看護

1.1

# 検索



#### 学会サイト <mark>日本消化管学会</mark>のサ イトでガイドライン 発見

※日本消化管学会、「便通異常症診療 ガイドライン2023(慢性便秘症・慢 性下痢症)」発刊のお知らせ、2023-7-13.https://jpn-ga.jp/blog/ct\_formembers/8705/[2023.11.15アクセ ス]

#### Google検索

便秘 ガイドライン 🔍

70

慢性便秘症診療ガイドライン2017 眞部紀明 著 - 2020 - 被引用数: 2一本稿では, 本ガイド

#### ガイドライン2017 の解説記事を発見 J-STAGE公開

表「慢性便秘症の治療」で「慢性便 秘症に生活習慣の改善は有効か?」 の項目に「適切な食事や運動、腹壁 マッサージは慢性便秘症の症状改善 に有効であり行うことを提案す る.」とあり。ただし、エビデンス レベルはA~CのうちC。

※真部紀明,春間賢 診療ガイドライン at a glance 慢性便秘症診療ガイドライフ 4t a glance 慢性便秘症診療ガイドライン2017.日本内科学会雑誌.2020,109(2),p.254-259より

#### 得られた文献の 参考資料

引用文献

14) K. Lämås K, et al: Effects of abdominal massage in management of constipation--a randomized controlled trial. Int J Nurs Stud, 46: 759-767, 2009

*f* 

"Abdominal massage was found to decrease severity of gastrointestinal symptoms, especially symptoms associated with constipation and pain syndrome....The massage, however, did not lead to a decrease in laxative intake..."

# 調べた情報を整理して提供

#### Wordに記録

腹部マッサージについての文献←

検索日:2023/10/31↔

①上田孝他.生活習慣の改善.診斷と治療.2022,110(1),p.41-45.+

検索日を記載

#### 高齢者に対する腹部マクサージについての文献→

②真部紀明,春間 賢.日常生活指導における便秘治療.The GI Forefront. 2020,16(1<u>).p.</u>18-21.ゼ ③山本貴嗣.侵性便秘症における生活習慣の改善.消化器内科.2020,2(1),p.31-37.ゼ

④K. <u>Lämäs</u>, L. Lindholm, H. Stenlund, <u>et al. Effects</u> of abdominal massage in management of constipation--a randomized controlled <u>crial.Int</u>, J. <u>Nurs. Stud.</u> 2009,46(6),p.759-67. ⑤真部紀明,春間賢.診療ガイドライン at a glance 慢性便秘症診療ガイドライン 2017.日本内科学会維誌.2020,109(2),p.254-259.

⑥Mori S, Ai T, Otomo Y..Laceration of the transverse mesocolon in an old man with a habit of abdominal massage for constipation: a case report.Surgical Case Reports.2030,6(1).↓

#### 学会サイト∈

日本消化管学会.便通異常症診療ガイドライン 2023—慢性便秘症.南江堂,2023,144p.↩

https://www.nankodo.co.jp/g/g9784524210053/~

10

# 調査を振り返って

利用者「腹部マッサージの効果がある」資料が欲しい



「効果がある」資料を選択して提供×

「効果がない、ないかもしれない」資料も提供する



#### 改善点

調べもののサポート

- ・見つかったものを取捨選択せず、すべて提供する
- ・「効果がある、ない」の判断は相談者に任せる

# まとめ (研修を通して)

- ◆ライフサイエンス分野におけるレファレンス
  - 利用者から質問→聞き取り→調査→提供 一連の流れを、実践的な内容で学ぶことができた
- ◆実際にレファレンスを対応して

学んだ内容が身についていたことを実感 理解できていなかった部分や改善点も分かった

◆今後の展望

聞き取り調査、検索の仕方も改善の必要 ライフサイエンス分野の知識の習得

2023年度

スキルアップ研修 ヘルスサイエンスにまつわる情報検索

# レファレンスサービスへの実践

新潟医療福祉大学 図書館・学習支援課 ILL(依頼)・参考調査担当

中村 委代

# 本学レファレンスサービスで実践するに あたって学んだこと

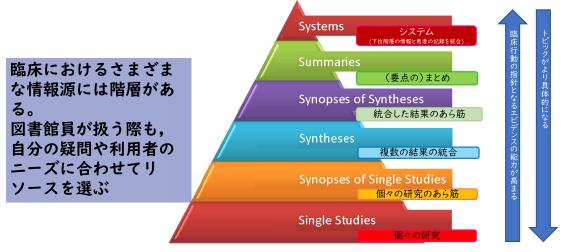
# 第 I 回 ライフサイエンス分野における情報収集

- ロ EBMや研究の特性を知る
- □ 探している情報にあわせて情報源や探し方も異なる

17

# 根拠に基づく臨床リソース: 6S pyramid model

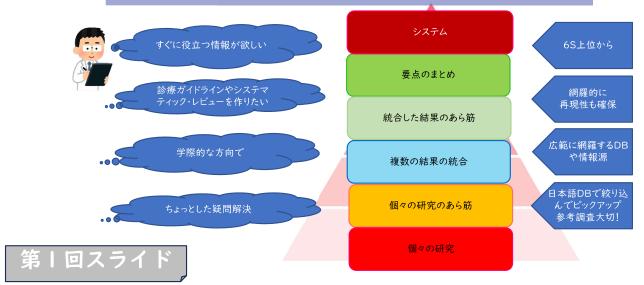
#### 目的・種類・質の違いを理解して選ぶ



Resources for Evidence-Based Practice: The 6S Pyramid. Secondary Resources for Evidence-Based Practice: The 6S Pyramid Feb 18, 2016 4:58 PM. http://hsl.mcmaster.libguides.com/ebm. [cited:2023-06-19]

# 利用者のニーズに合わせてツールを選択

目の前のターゲットのニーズに合わせてツールを選び, 「検索戦略」も検討する



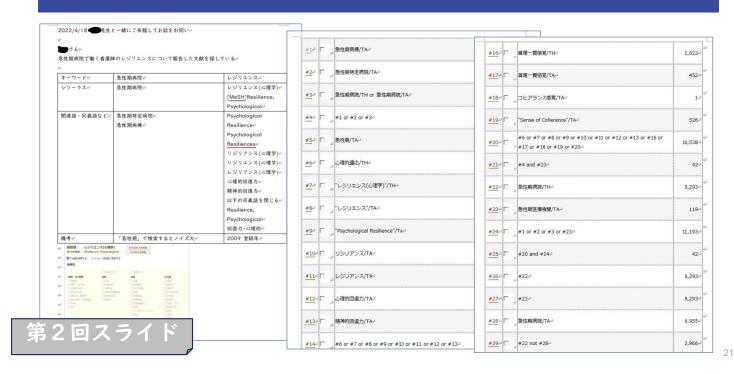
1

# 本学レファレンスサービスへ実践するに あたって学んだこと

第2回 そのほかの情報源 (ライフサイエンス分野の情報収集における便利ツール)

- 口検索キーワードの考え方・検索のコツ(演習)
- ロレファレンス記録・検索式・検索結果の保存
- □ 大切なのは利用者のニーズにあわせてツールを選択し、検索戦略も 検討すること

# レファレンス記録を残すことをお勧めします



本学レファレンスサービスへ実践するに あたって学んだこと

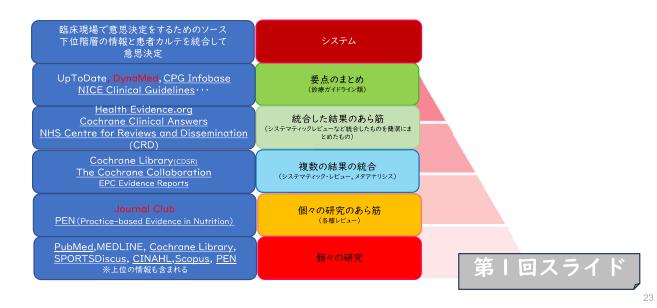
第3回〜第6回 演習 (感染対策情報・卒論・文献レヴュー・利用者サポート)

第6回 文献レビュー編

~本学での事例~ システマティックレビューを調査している教員へのサポート

# 6S pyramid model:リソースの例

#### みなさまのご所属機関で利用可能なツールを並べてみました※★●は何料で未契約



# ~本学での事例~ システマティックレビューを調査している教員へのサポート

#### 図書館でできるサービス・サポート レファレンス記録等 連載方法 □3カメール ■大級・その他 回答期限 所名 作業原法学科教育 教員 Cochrane Library • 受ける: ( 明社 受ける: ( 明社 「受問事情]: 全がサリキャーフーアなど、部分は"の見言ないすべき出立い 見から思い思い思う的すると ・システマティックレビュー目的たちのデーメベースについてを用させるものはあるか。 一両名文献、中華をおに関するシステンティッフレビューを収している MEDLINE(EBSCOhost) を案内 [原を消毒形] 「最高数年(有・集) 「最高数年(有・集) エルタース (国が第一公局をsound・Pabled・我) ・Pabled要素素、再属できているか予定 □ 希望内容を聞き取り代行検索 作業療法に 所能調整(はなくいと同様がどここちも)) 「日本認識(場所に関する資金) 「 「課意を整備」 「日本 1 つから中川」の他のは他のより、最後を見る日本化削り収録すること は単にははドルスキマナイ・クルイン、一番を利用できるデータースよりいて 自然の利用がデータースよりできる。 「日本の本に関われて、これが、日本の本の本の人間のよりないとは、日本の本の人間のようないとなった。」 関するSR □ 文献の入手 同僚女子・タベースは下近の3種 ane Ubrary、C NAHL(ESCChose)新CNAHLは音磁光文素がやら、MEDLINE(ESSCOh seについては高級でを学うの単入はすぐに実現は難しい有音等 /でも代行機景を希望される場合はレータードなど扱えていただけれ可能な容響内 レファレンス記録を保存・共有して終了 英語文献

# 研修で学んだことを実践するにあたって

# すぐに実践 できること

- ・レファレンスインタビューの工夫:検索ツールの選 択・検索方法(キーワード)の改善
- ・レファレンス記録管理:記録フォーマットの作成・ 保存・共有

# 課題

- ・本学のレファレンス受付体制(場所・時間・方法)
- ·ILLのための所蔵調査が大半で事項調査、代行検索は 少ない
- ・サービスの均一性

#### 2023年度

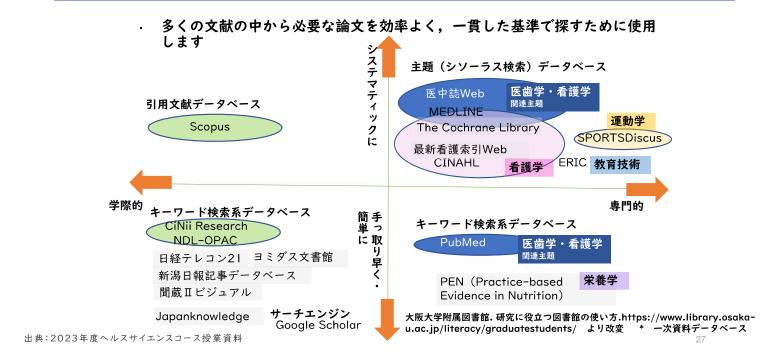
スキルアップ研修分野における情報収集ヘルスサイエンスコース ~EBMをベースにした情報検索知識の修得~

本学レファレンス業務への活用

新潟医療福祉大学 図書館・学習支援課 船山 澄子

# 文献データベース・検索システム

論文の種類と特性を理解 ➤ 研究の種類を理解 ➤ 利用者が求める情報に合わせて情報源と検索方法が異なる



# 図書館員としてサポートできるところ

キーワードを使って、文献・情報を検索する ➤ 対象となる文献を入手する



#### こういうテーマだったらこのデータベースを使っても良いかもしれません

主題分野	ツール
医学	医中誌Web、 PubMed、 Cochrane Central Register of Controlled Trial, Cochrane Reviews: Cochrane Database of Systematic Reviews (the Cochrane Library)
看護	医中誌Web、最新看護索引Web JDreamIII、CiNii Research PubMed、CINAHL (with fulltext)、 Cochrane Central Register of Controlled Trial, Cochrane Reviews: Cochrane Database of Systematic Reviews (the Cochrane Library)
薬学	医中誌Web、PubMed、Embase(契約がある場合) Cochrane Central Register of Controlled Trial, Cochrane Reviews: Cochrane Database of Systematic Reviews (the Cochrane Library)

人文系: NDL Online、 HathiTrust、 GoogleScholar、 Web of Science

# 文献検索 本学の事例

筋肉中の有機酸であるクレアチンと スポーツ(サッカー)の関係について、関連する研究はないか

健康スポーツ学科 3年生

20

# キーワードの考え方

## 急性期病院で働く看護師のレジリエンス

①助詞は省く	急性期病院,働く,看護師 レジリエンス
②単語にわける	急性期病院,働く,看護師, レジリエンス
③必要最小限に絞る	急性期病院,看護師, レジリエンス

「患者」「治療」「疾患」「方法」「ケア」など の単語は省略した方が多くの文献がヒットします

#### 検索結果の絞り込み

検索結果を絞り込むときには 左側メニューの"絞り込み条件"を使う



「解説」には商業的な専門誌の特集記事などが含まれます。この中には,看護職が臨床実践(例:新しいケアの工夫や困難な事例など)を報告して いる記事もあります。 「原著論文」で絞るとこういう文献に出会う機会

を失ってしまいます

出典:2023年度ヘルスサイエンスコース授業資料

# 対応 「筋肉中の有機酸であるクレアチンとスポーツ(サッカー)の関係について、関連する研究はないか」



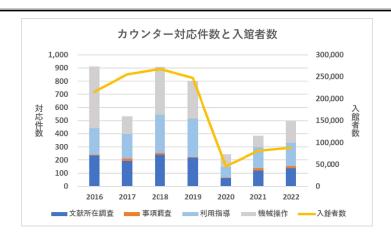
- ・((Creatine/TH or クレアチン/TA) and (スポーツ/TH or スポーツ/TA)) 91件
- · ➤文献のセレクトは依頼者が行う(そのテーマの専門家は依頼者自身) 絞り込みは慎重に
- × 多すぎるキーワードで絞込検索をするともれてしまう論文が多数 (((有機酸/AL) or ((Creatine/TH or クレアチン/AL))) and (((スポーツ/TH or スポーツ/AL)) or ((サッ
- ・>ヒットした文献から関連するものを探し「スポーツ医学」のキーワードを抽出 適切なキーワードの選択
- ((Creatine/TH or クレアチン/TA) and (スポーツ医学/TH)) 46件
- × 「スポーツ栄養学」のキーワードでは文献数が少ない ((スポーツ栄養学/TH or スポーツ栄養学/TA) and (Creatine/TH or クレアチン/TA)):6件
- ・≻クレアチンが疲労や競技へ及ぼす影響を調査した研究を抜粋して回答>ニーズに適う30件の文献に絞れた

#### 受講しての気づき

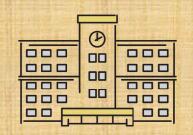
論文の種類と特性を理解→研究の種類を理解→利用者が求める情報に合わせて情報源と検索方法が異なる レファレンス対応の際、最初の聞き取りを十分に丁寧に行う重要性

検索式・検索結果の保存と共有

司書に貢献できるポイントで積極的に対応する姿勢



33



# 学生協働コース

2023年度研修報告大会 スキルアップ研修

2023年12月15日 (金)

参加人数 7名

発表者 専修大学 蒲田勝太

新潟医療福祉大学 佐藤真由子

# 発表内容

- 1. 研修概要
- 2. 研修での学び
- 3. 研修終了後の職場実践【成果報告】

# Ⅰ.研修概要\_第Ⅰ回~4回の全体像のご紹介

#### 6月17日(土)

#### 第1回

大学図書館における 学生協働の意義を考える 【意義編】

#### 【目的】

・大学図書館における学生 協働の意義、目的について の捉え方を広げることで、自 職場の学生協働のあり方を 考え直すきっかけを作る

#### 7月15 (土)

#### 第2回

大学図書館における 学生協働の意義を考える 【仕組み編】

#### 【目的】

・第1回目で考え直した自職場の大学図書館の意義、目的を実現するために、現状の仕組みの課題と解決策を考える

#### 8月19日(土)

第3回 大学図書館における 学生協働の意義を考える 【組織とコミュニケーション のあり方編】

#### 目的】

・第1回目で考え直した自職場の大学図書館の意義、目的を実現するために、組織のあり方と学生とのコミュニケーションに求められるスキルを学び、実践する

#### 9月16日 (土)

#### 第4回

自職場の学生協働 のあり方を考え直す 【総仕上げ】

【12月】研修報告大会

#### 目的】

・第1回〜第3回の内容を 踏まえ、研修終了後、自職 場の学生協働のあり方をど のように維持、発展させてい くかを具体的に考える

# 2. 研修での学び

次頁以降、各回の「研修目的」「プログラム内容」 「研修での学び」を順番にご報告します。

1

#### 第1回 大学図書館における学生協働の意義を考える【意義編】

#### 【目的】

大学図書館における学生協働の意義、目的について捉え方を広げることで、自職場 の学生協働のあり方を考え直すきっかけを作る。

#### 【プログラム】

- · 講師 · 参加者自己紹介
- 事前課題論文『大学図書館における学生協働とは何か』を読んで
- 大学図書館における学生協働のあり方の再定義

#### 第1回 大学図書館における学生協働の意義を考える【意義編】

#### 【研修での学び】

- 学生協働とは、**大学図書館における人と人との多様なつながり**方を読み解いたうえで、 それらの関係を図書館活動のなかに**どのように位置づけ**、新たなサービスとして展開 していくのか考え続けていく活動。
- 学生協働を実施するための目的は、「**学生の学びと成長を支援する**」ことで、その方向を決定するために、建学の精神・教学理念・学生育成目標を見つめ直す。
- 大学職員の存在を抜きにした学生協働は実際には困難であるため、大学の理念に沿う ことを意識しつつ、大学図書館職員は**学習・教育支援のハブ**になる必要がある。
- 学生協働の現状認識を確認し、取り組みが想定している活動形態と枠組みについて検討する機会になった。

#### 第2回 大学図書館における学生協働の意義を考える【仕組み編】

#### 【目的】

第1回目で考え直した自職場の大学図書館の意義、目的を実現するために、現状の 仕組みの課題と解決策を考える。

#### 【プログラム】

- 第1回目の振り返り
- 講師の学生協働の事例紹介
- 自職場における学生協働の仕組みと課題と解決策を考える

# 

#### 第2回 大学図書館における学生協働の意義を考える【仕組み編】

#### 【研修での学び】

- ・学生の立場がボランティアなのか、アルバイトなのかで状況が異なる場合はあるが、学生協働をしていくうえで**基本的な考え方は同様**となる。
- ・事前課題として「大学図書館における学生協働の**ありたい姿**」と「現状」の2つの視点で「自職場における学生協働」を考えた。
- 第1回からも、大学図書館職員の存在を抜きにした学生協働は実際 には困難であることを更に認識。

#### 【目的】

講師の好意で第2回研修「講師の学生協働の事例紹介」の続編。 さらに視野を広げる。

#### 【プログラム】

- ・ 学生ライブラリースタッフ制度の改革 (組織体制や採用、教育体制の見直し等)
- 図書館刊行物の認知度向上に向けた学生協働
- 大学教員と連携した「大学図書館広報」をテーマにした学生協働

第2.5回 自職場における学生協働の取組例・工夫点紹介【講師編】

#### 【研修での学び】

- 学生協働は**利用者と図書館をつなぐ役割**がある。
- ・"「大学図書館刊行物」=大学図書館関係者のみで制作"という**固定** 概念からの脱却
- 図書館をアカデミックな場としてではなく、学生が学び交流する身 近な場とする。

#### 【目的】

第I回目で考え直した自職場の大学図書館の意義、目的を実現するために、 組織のあり方と学生とのコミュニケーションに求められるスキルを学び、実践する。

#### 【プログラム】

- 事前課題記事を読んで『変化に即応する自律型組織の作り方 ~全員が主役となる「対話」の促進~』
- 「自立型組織」(やることややり方を自分たちで決めて動いて成果を出す組織)
  - VS 「管理型組織」(指揮命令系統が明確なピラミッド型の組織)
- 「組織」のあり方と「コミュニケーション」のあり方を考える際に 参考になる理論紹介
- ・チェスター・バーナードの 組織の3要素
- ・タックマンモデル
- · Google O Project aristotle
- ・GRIPIモデル
- な

12

第3回 大学図書館における学生協働の意義を考える 【組織とコミュニケーションのあり方編】

#### 【研修での学び】

- 学生協働の取組を推進する上で求められるコミュニケーションとは、メンバー (学生)が自発的に「**やりたい!」と思えるような環境**を作ること。
- ・大学図書館職員と学生という立場の違いは意識しつつ、対話を通し、まずは学生と**信頼関係を築く**ことが重要。しかし、この「まずは」が一番難しいかもしれない。ビジョンの共有や内発的動機付け、**傾聴**など様々な要素が必要となる。
- 褒め方のコツは、成果承認・行為承認・存在承認
- コミュニケーション上手な人の特徴は、観察上手 + 聴き上手

#### 【目的】

第1回~第3回の内容を踏まえ、研修終了後、自職場の学生協働のあり方を どうのように維持、発展させていくかを具体的に考える

#### 【プログラム】

- ・ 第3回の研修を踏まえて、次の勤務から実践していきたいことの振り返り
- 今後の自部署における学生協働の方向性について
- 学生協働コースまとめ

I	4	4	ŀ
1	'		1

今後の自部署における学生協働の方	<b>う向性について(事前課題①)</b>	
大学、部署名:●●大学OO	氏名: ●提出期限 2023年9月14	日 (木)
見直しを検討する学生協働活動名:	18時00分	
①TO BE(あるべき姿 = ビジョン) 【学生協働団体における組織の仕組み、メンバー同士の関係性等】	③GAP (問題) ※①と②の間のGAP (~ができていない) 【学生協働団体における組織の仕組み、メンバー同士の関係性等】	
【学生協働に関わる大学図書館職員としてどのように関わりたいか】	【学生協働に関わる大学図書館職員としての関わり方】	
②AS IS (現状) 【学生協働団体における組織の仕組み、メンバー同士の関係性等】	④ISSUE(課題) 【学生協働団体における組織の仕組み、メンバー同土の関係性等】	
【学生協働に関わる大学図書館職員としてどのように関わっているか】	【学生協働に関わる大学図書館職員としての関わり方】	

#### 第3回の研修を踏まえて、次の勤務から実践していきたいこと振り返り(事前課題②)

大学、部署名: 氏名: **長名: 長名: 長名: 長名: 長名: 18時00分** 

カテゴリ	第3回時に記載した内容	実際に取り組んだ内容	実践したことによる学び (うまくいった点、改善点)
①続けていきたいこと			
②止めること			
③新しく始めること			

©IAAL 無断複製転載を禁じます

3

## 第4回 自職場の学生協働のあり方を考え直す【総仕上げ】

#### 【研修での学び】

- 学生協働の目的、推進理由は「学生の学びと成長を支援する」
- 自部署における学生協働の取り組みをより良い内容にするための施策(TO DO) を考える。
- 「研修(≒学びの場)」×「他者からのフィードバック」×「経験(実践)」の3つのサイクルをうまく組み合わせることが大事。
- TO DO (施策) はSMARTを意識する

Specific (具体的に)

Measurable (測定可能な) Achievable (達成可能な)

Related (経営目標に関連した)

Time-bound (時間制約がある)

# 3.研修終了後の職場実践【成果報告】

学生協働推進のために職員側の意識改革

- ①立場が異なっても、まずは相手の行動、言動を認める
- ②他の図書館に足を運び、自分の目で学生協働のヒントを探す
- ③日々の昼休憩などで他課の職員と情報交換、アンテナを高くする
- ④地域連携、学内の他部署とのコラボ企画
- ⑤上級生が下級生の学習を支援する「学習支援ピアサポーター」制の見直し

**"恒久財産"**を残したい!へ

18

# ご清聴ありがとうございました。



# 2023年度研修報告スキルアップ研修電子リソースコース

私立大学図書館協会東地区部会研究部 研修報告大会 2023年12月15日(金)

# スキルアップ研修 電子リソースコースについて

**吉野** 知義 氏

(神田外語大学・大学図書館支援機構)

【形式】 オンライン(Zoomミーティング)

【受講者数】 15名

【開催日】 全4回

2023/8/5 (±) .9/2 (±) .9/30 (±) .11/4

(土)

【質問応答の共有手段】コミュニケーションシート ※googleスプレッドシートの活用

# 到達目標

- 電子リソースの現状に改めて向き合う
- 電子リソースの基本的な理解を深める
- 利用促進から効率的な管理方法、資料や予算の構成、 人的リソースの構築を含む図書館全体を俯瞰した 視点を持てるようになることを目指す

# 内容

- 電子リソースに特有の資料管理、コレクション形成、 契約管理、技術的課題などの解説
- 学内での利用促進、外部機関との連携等を含めた 将来的な展望を持つことを目的とした受講者相互の 状況の理解、共有

# 各回のスケジュール

#### 第1回(8/5):電子リソースの現状をつかむ

- ・アイスブレーク
- 電子リソースとは何か
- 電子リソースの成り立ち
- 他の図書館資料との関係性

#### 第2回(9/2):電子リソースの流通を見る

- ・ 学術情報流通の中での電子リソース
- Open Access
- ・コンソーシアム
- ・ 電子書籍と出版

#### 第3回(9/30):電子リソースの管理を知る

- ・ 電子リソースを取り巻く技術
- ・ 利用統計の活用
- 契約、ライセンスの管理
- ・ ERMS(電子リソース管理システム)

#### 第4回(11/4):電子リソースの運用を考える

- ・ 電子リソース運用に必要なスキル
- 学内での利用促進
- ・ 図書館・大学運営における位置づけ
- まとめ

# 第1回:電子リソースの現状をつかむ

#### 【講義内容】

- アイスブレーク
- 電子リソースとは何か
- 電子リソースの成り立ち
- 他の図書館資料との関係性



第1回:電子リソースの現状をつかむ

# 【講義を受講しての気づき】

- 「データベース」の広義・狭義の違い
- 電子リソースと技術革新

第1回:電子リソースの現状をつかむ

## 【まとめ】

- 電子リソースとは何か
- 電子リソースの成り立ち
- 他の図書館資料との関係性

# 第2回:電子リソースの流通を見る



#### 【講義内容】

● 学術情報流通の中での電子リソース

電子ジャーナルの普及により、学術情報の電子化が 進行。雑誌のバックナンバーも遡って電子化されて いる。

Open Access

文献がインターネット上において無料で利用可能であり、合法的目的のための利用であれば、誰でも閲覧、 ダウンロードなどが許可されている。

第2回:電子リソースの流通を見る

#### 【講義内容】

• コンソーシアム

電子リソースにおいては、複数の参加機関が共同して電子ジャーナルなどを購入する連合体のこと。 (主なコンソーシアム: JUSTICEなど)

● 電子書籍と出版

電子書籍の提供者としては、出版社とアグリゲータが挙げられる。価格は高めである。

- o 出版社系: Elsevier、Springer、化学書資料館など
- o アグリゲータ系: EBSCO、ProQuest、KinoDenなど

第2回:電子リソースの流通を見る

#### 【講義を受講しての気づき】

● 電子リソースは、時間、場所を選ばず、活用の幅も広いが、 保存や永続的アクセスや価格の高騰など課題も多い。 ただ、市場の違いのせいか、洋書に比べて和書は電子化で 遅れをとっており、和書を扱う立場としては残念な状況で ある。また、電子リソースごとに販売業者が異なるため、 それぞれの違いを認識しておく必要がある。

第2回:電子リソースの流通を見る

#### 【まとめ】

● 電子リソースは、契約や管理が販売業者、契約タイトル ごとに異なり、煩雑である。

大学図書館としては、ジャーナルの価格高騰を コンソーシアムによる購入などで安定させたいが、 電子リソースの価格高騰は収まらない。 第2回:電子リソースの流通を見る

#### 【まとめ】

また、ジャーナルのオープンアクセスが進んできたことにより、著者がAPCを支払うケースが出てきた。

大学ではAPCと購読料の価格を抑えるため、

電子ジャーナルの購読料からオープンアクセス出版料に シフトさせる「転換契約」が進んでいる。

ただ、転換契約にも色々な形態があり、契約に際してはきちんとした理解が必要である。

第3回:電子リソースの管理を知る





#### 【講義内容】

電子リソースを取り巻く技術

#### アクセスするための技術

認証方法

IP認証、ID/PW認

証

リモートアクセス

リファラー認証、VPN、

EZproxy,

資料を特定するための技術 boleth(□人を特定するための技術

- DOI - OpenURL

ORCID - ResearcherID

• Researchmap など

第3回:電子リソースの管理を知る

#### 【講義内容】

利用統計の活用

#### **COUNTER**

電子リソースの利用統計の国際標準。利用統計の出し方の 条件を標準化して比較可能にしている。

(例) エルゼビアのCOUNTER取得 電子ジャーナル・電子ブック・データベース >

プラットフォーム・タイトルレコード>

標準ビュー(レポートの内容)>

購読タイトルの 見直しや、

利用動向の把握 \_などに活用\_\_\_

メトリックタイプ Total ≧ Unique • Investigation ≧ Request

第3回:電子リソースの管理を知る

【講義内容】

# 契約、ライセンスの管理

図書館システム以外の個別管理。Excelで管理...手作業!



ERMS(電子リソース管理システム) 日本ではNII電子リソースデータ共有サービス 第3回:電子リソースの管理を知る

#### 【講義を受講しての気づき】

- 自機関に適した認証方法を検討すること。
- ORCIDやDOIで電子リソースを特定することでリンク 形成に役立つ。利用統計は、購読タイトルの見直しや、 利用動向に活用し、電子リソースを管理、運用していく。
- 業者や学内の情報システム部門と話す場面で困らないように、今回の内容を理解し、さらに今後も電子リソース技術の動向をチェックして更新していくことが大切である。

第3回:電子リソースの管理を知る

## 【まとめ】

電子資料をすべてデジタルで運用するために、 認証方法(IP認証やVPN)や標準規格(DOIやOpenURL)が整備されてきた

- → 契約や管理、利用統計が個別で行われ、煩雑になってきた
- → それらのデータを総合で管理し、共有できるシステムが 必要になってきた (NIIIによる電子リソースデータ共有サービス)

# 第4回:電子リソースの運用を考える

#### 【講義内容】

- 電子リソース運用に必要なスキル
- 学内での利用促進
- 図書館・大学運営における位置づけ
- ・まとめ





第4回:電子リソースの運用を考える

## 【講義を受講しての気づき】

● 電子リソース運用に必要なスキル

研修内で共有したスキルは主に以下6つ。

- コミュニケーション力
- 電子リソースに関する知識
- 統計に関するスキル
- o ICTスキル
- 語学力
- 情報収集力

第4回:電子リソースの運用を考える

# 【講義を受講しての気づき】

#### ● 学内での利用促進

- 講習会やガイダンスの実施
- 動画やマニュアルの作成・公開
- 展示の工夫
- 学生向けイベントの開催
- o ブクログやSNS等を利用した案内
- o HPの改修 等

第4回:電子リソースの運用を考える

#### 【講義を受講しての気づき】

#### ● 図書館・大学運営における位置づけ

- 他部署へ図書館業務の協力依頼を行う
- 電子リソースの活用を提案していく 等
- ⇒ 協働の関係を構築することにより、 大学組織の中で図書館の存在感を 高めていく必要がある。

第4回:電子リソースの運用を考える

#### 【まとめ】

- 電子リソース運用に必要なスキルは各大学共通の ものが多い。
- 利用促進に正解はなく、まずは色々試すことが大切。
- 学生や教員へのサービスだけでなく、職員の業務支援にも幅広くリソースを活かす。

### まとめ

- 研修で学んだ知識は業務に対するより深い理解へと 繋がり、他大学の様子を知ることで、電子だけではない 図書館リソースの今後の活用について実践的に考える ことができた。
- 電子リソースはこれからも変化し、図書館業務も 同じように変わっていく。今回の研修を足掛かりにして これからも学び続けていきたい。